

I 調査の概要

1 目的

学校における幼児、児童及び生徒の発育及び健康の状態を明らかにすることを目的とする。

2 調査の根拠

学校保健統計調査規則（昭和 27 年文部省令第 5 号）に基づいて実施される基幹統計調査。

3 調査の範囲・対象

(1) 調査の範囲は、幼稚園、幼保連携型認定こども園、小学校、中学校、義務教育学校及び高等学校のうち、文部科学大臣があらかじめ指定した学校（以下「調査実施校」という。）。

(2) 調査の対象は、調査実施校に在籍する満 5 歳から 17 歳（令和 4 年 4 月 1 日現在）までの幼児、児童及び生徒（以下「児童等」という。）の一部。

※幼稚園には幼保連携型認定こども園を含む。

※小学校には義務教育学校の第 1～6 学年、中学校には義務教育学校の第 7～9 学年を含む。

※幼稚園は 5 歳、小学校は 6 歳～11 歳、中学校は 12 歳～14 歳、高等学校は 15 歳～17 歳の区分。

4 調査事項

(1) 発育状態調査

児童等の発育状態（身長及び体重）

(2) 健康状態調査

児童等の健康状態（栄養状態、脊柱・胸郭・四肢の疾病・異常の有無、視力、聴力、眼の疾病・異常の有無、耳鼻咽喉頭疾患の有無、皮膚疾患の有無、歯・口腔の疾病・異常の有無、結核の有無、心臓の疾病・異常の有無、尿、その他の疾病・異常の有無及び結核に関する検診の結果、）

(3) 相談員配置状況（退職教員、保育士、民生児童委員など地域の人材等）

児童が悩みや不安を気軽に相談できる話し相手として、また学校と保護者・地域のパイプ役として、不登校・問題行動等の未然防止や早期発見・早期対応に当たる者。

(4) スクールカウンセラー配置状況（臨床心理士、精神科医、心理学系の大学の常勤教員等）

臨床心理に関し高度に専門的な知識・経験を有する者であり、心の専門家として、専門性を有しつつ、児童生徒へのカウンセリング、教職員及び保護者に対する助言・援助を行う者。

5 調査の期日

令和 4 年 4 月 1 日から同年 6 月 30 日までの間に実施された学校保健安全法（昭和 33 年法律第 56 号）による健康診断の結果に基づき調査。ただし、令和 4 年度においても令和 3 年度に引き続き、令和 4 年 4 月 1 日から令和 5 年 3 月 31 日までの 1 年間に実施された健康診断の結果。

6 調査実施校数及び調査対象者数

調査実施校数、調査対象者数は次のとおりである。

調査実施校の内訳

区 分	学校数 (園、校)	幼児・児童 生徒数(人)	調査実施 校数 (園、校)	発育状態調査		健康状態調査	
				対象者数(人)	抽出率(%)	対象者数(人)	抽出率(%)
幼稚園 (5歳児)	60	1,786	27	805	45.1	1,004	56.2
小学校	122	28,248	56	5,177	18.3	18,784	66.5
中学校	62	14,473	36	3,996	27.6	11,512	79.5
高等学校	32	14,124	23	2,022	14.3	12,146	86.0
計	276	58,631	142	12,000	20.5	43,446	74.1

注 1：抽出率＝（調査対象者数）／（令和 4 年度学校基本調査各学区の園児数、児童数及び生徒数（確報値））

注 2：幼稚園の学校数及び園児数は、幼保連携型認定こども園の数値を含む。

注 3：小学校の学校数及び児童数は、義務教育学校（第 1 学年～第 6 学年）の数値を含む

注 4：中学校の学校数及び児童数は、義務教育学校（第 7 学年～第 9 学年）の数値を含む

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長

身長推移は、男子は平成13年度あたりから、女子は平成9年度あたりから横ばい傾向となっている。

ア 前年度との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、13歳の161.5cm(前年度より1.0cm増)で、次いで15歳の168.9cm(同0.7cm増)であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、17歳の158.2cm(同0.6cm増)で、次いで7歳の122.1cm(同0.4cm増)及び16歳の157.2cm(同0.4cm減)であった。

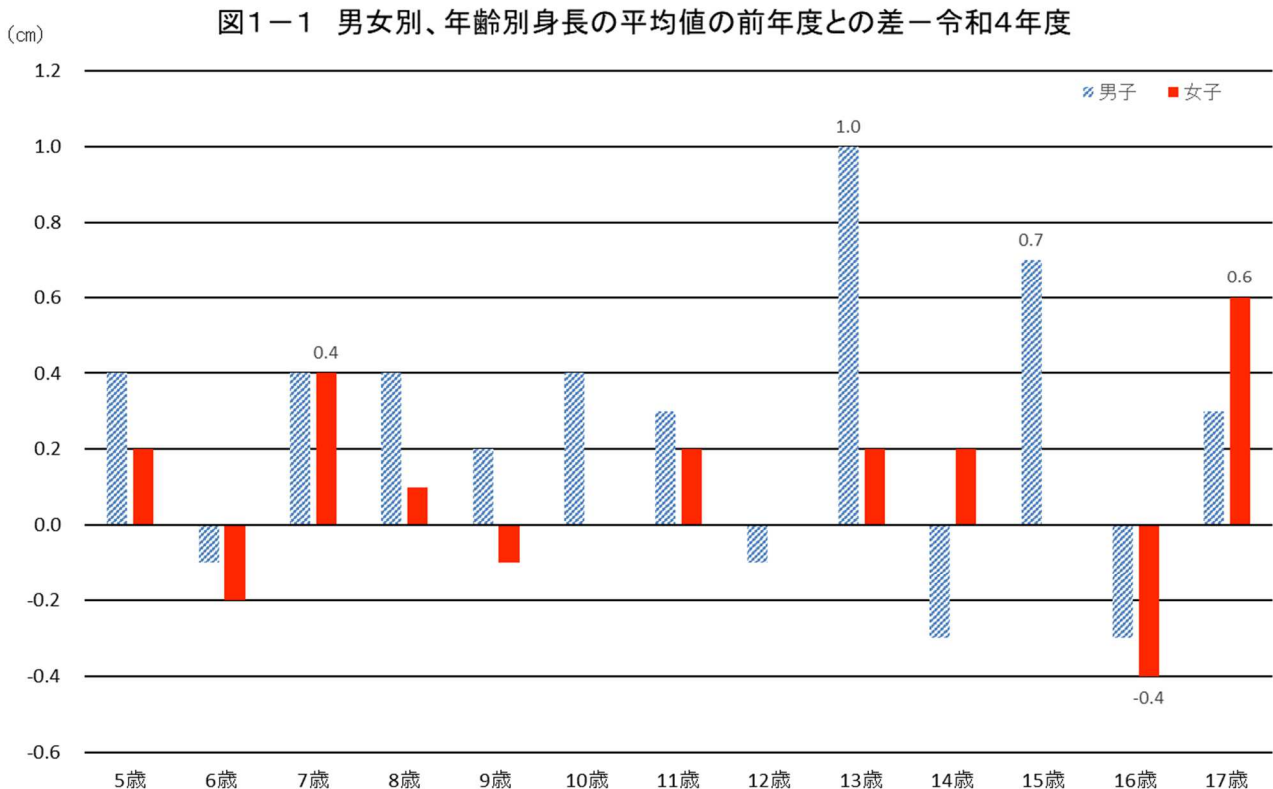
イ 全国との比較

- ・男子をみると、17歳の171.5cm(全国より0.8cm増)で、次いで13歳の161.5cm(同0.6cm増)6歳の116.5cm、10歳の139.2cm及び12歳の153.5cm(同0.5cm減)であった。
- ・女子をみると、15歳の156.6cm(同0.6cm減)で、次いで16歳の157.2cm(同0.5cm減)であった。

ウ 30年前(親の世代:平成4年度)との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、13歳の161.5cm(30年前より2.2cm増)で、次いで12歳の153.5cm(同1.9cm増)、11歳の145.8cm(同1.5cm増)であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、11歳の147.9cm(同1.5cm増)で、次いで9歳の134.1cm(同1.1cm増)、10歳の141.5cm(同1.0cm増)であった。

(図1-1~1-5、表1 統計表 表1、表2-1~2-2)



(注) 女子の10歳、12歳及び15歳は前年度と同水準

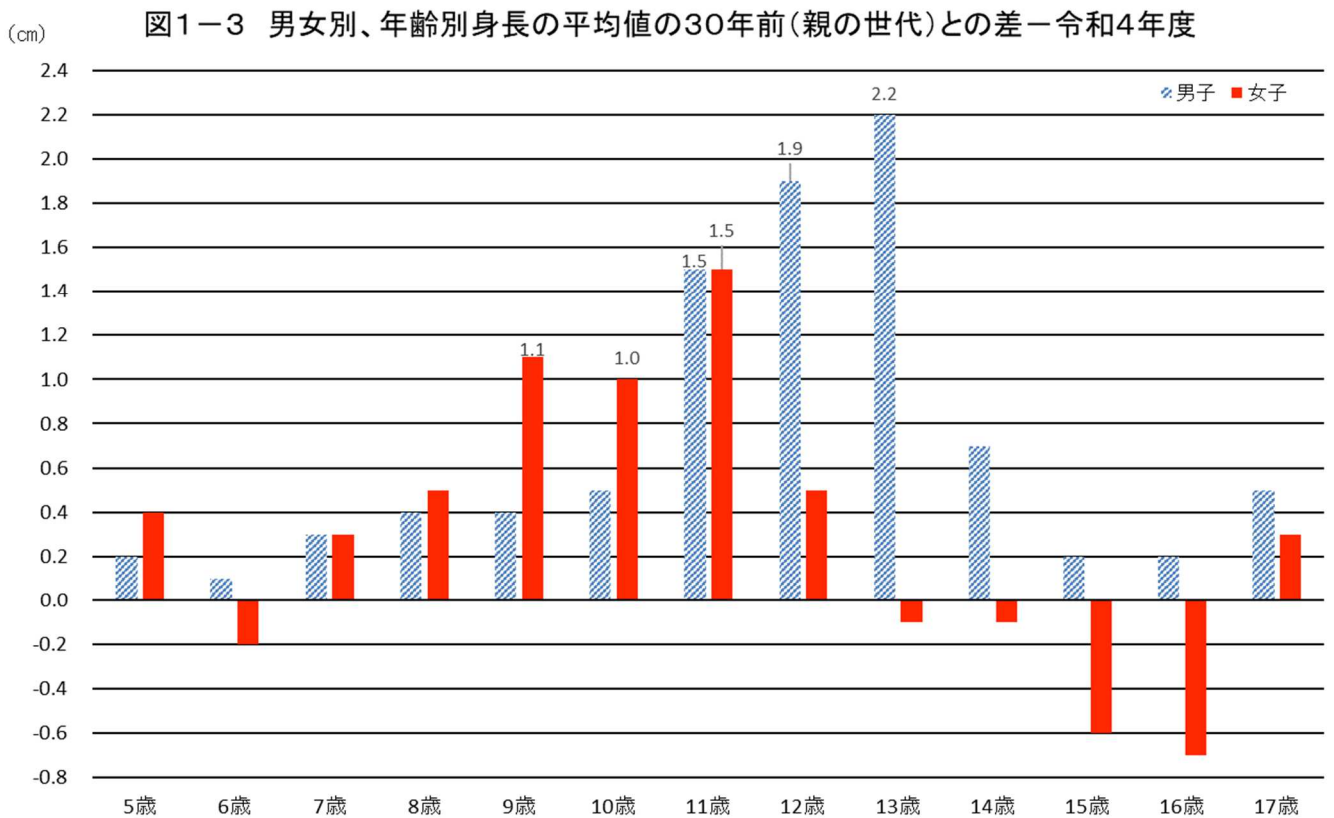
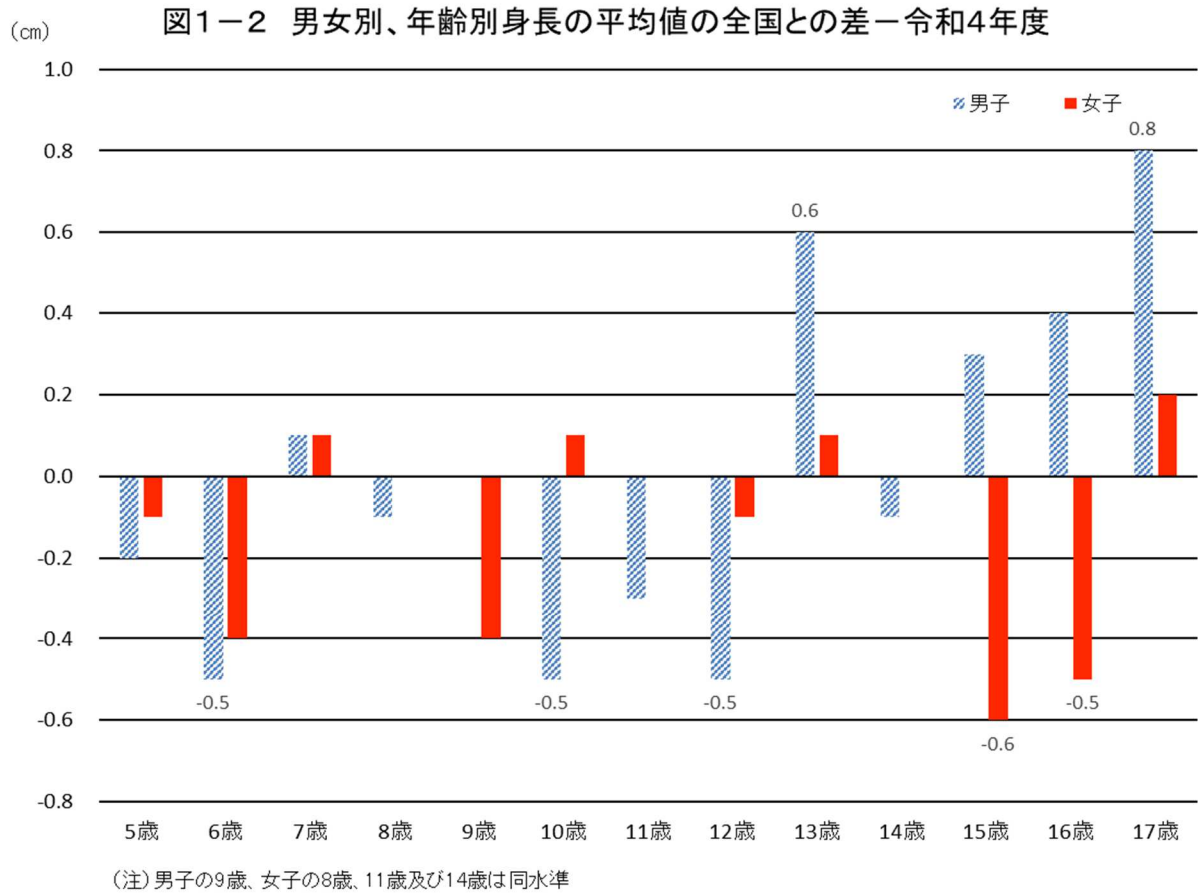


図1-4 男子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

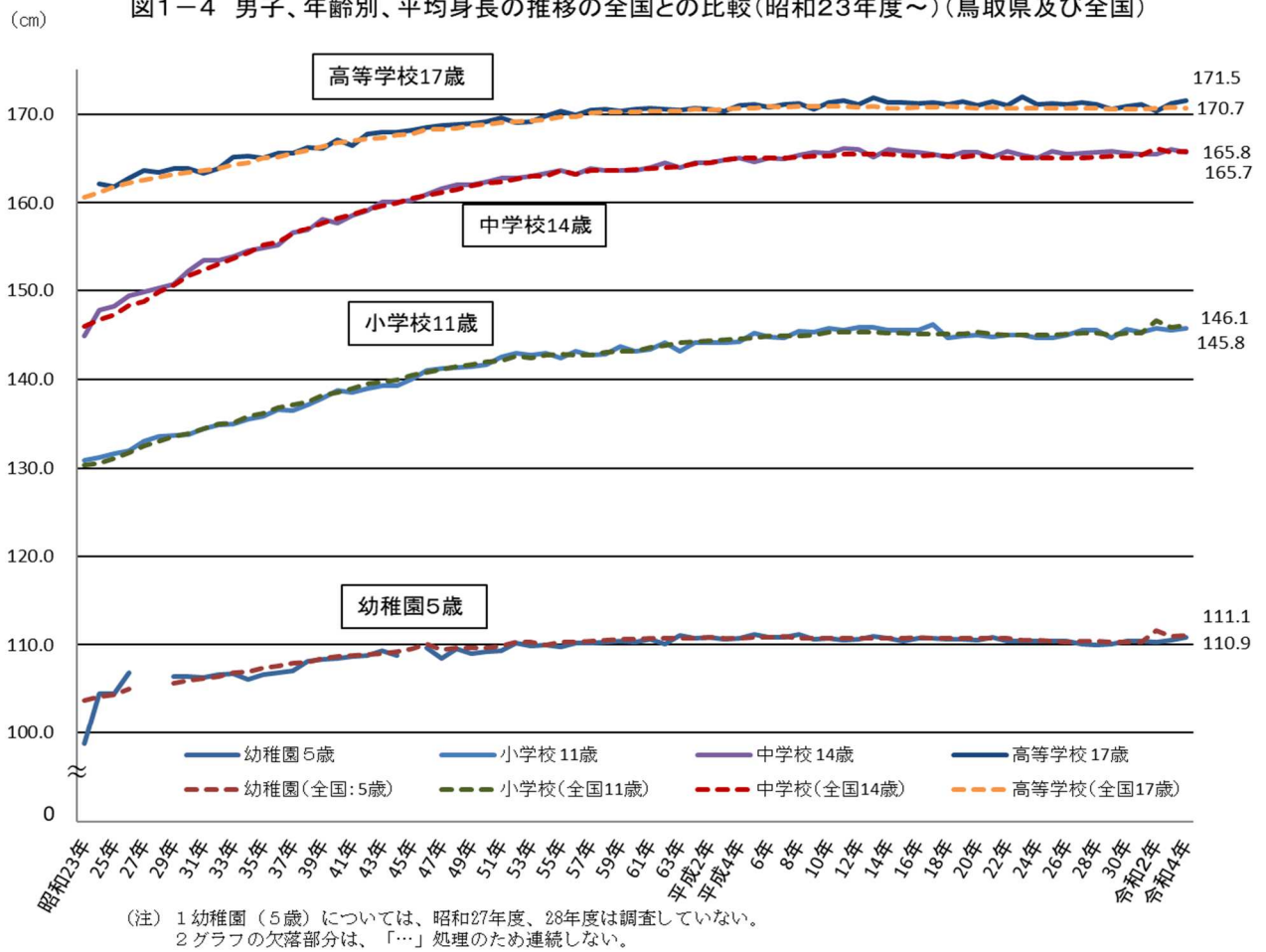


図1-5 女子、年齢別、平均身長推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)

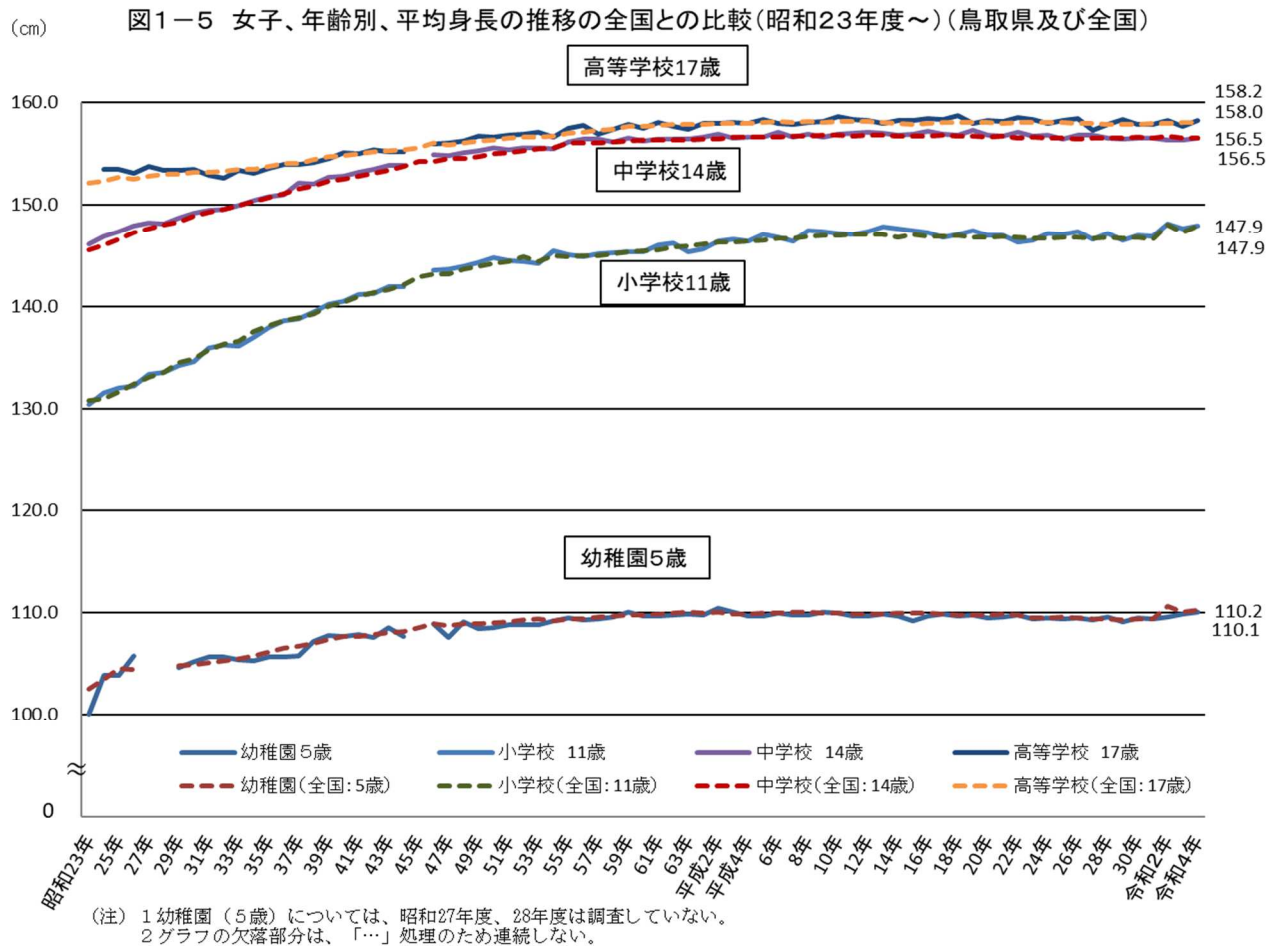


表1 男女別、年齢別身長の平均値の比較(鳥取県:令和4年度、令和3年度、平成4年度/全国:令和4年度)

(単位:cm)

区分		令和4年度 (A)	平成3年度 (B)	前年度との差 (A-B)	全国(R4) (C)	全国との差 (A-C)	30年前(親の世代) <平成4年度> (D)	親の世代との差 (A-D)	
男子	幼稚園	5歳	110.9	110.5	0.4	111.1	-0.2	110.7	0.2
	小学校	6歳	116.5	116.6	-0.1	117.0	-0.5	116.4	0.1
		7歳	123.0	122.6	0.4	122.9	0.1	122.7	0.3
		8歳	128.4	128.0	0.4	128.5	-0.1	128.0	0.4
		9歳	133.9	133.7	0.2	133.9	0.0	133.5	0.4
		10歳	139.2	138.8	0.4	139.7	-0.5	138.7	0.5
		11歳	145.8	145.5	0.3	146.1	-0.3	144.3	1.5
	中学校	12歳	153.5	153.6	-0.1	154.0	-0.5	151.6	1.9
		13歳	161.5	160.5	1.0	160.9	0.6	159.3	2.2
		14歳	165.7	166.0	-0.3	165.8	-0.1	165.0	0.7
	高等学校	15歳	168.9	168.2	0.7	168.6	0.3	168.7	0.2
		16歳	170.3	170.6	-0.3	169.9	0.4	170.1	0.2
		17歳	171.5	171.2	0.3	170.7	0.8	171.0	0.5
	女子	幼稚園	5歳	110.1	109.9	0.2	110.2	-0.1	109.7
小学校		6歳	115.6	115.8	-0.2	116.0	-0.4	115.8	-0.2
		7歳	122.1	121.7	0.4	122.0	0.1	121.8	0.3
		8歳	128.1	128.0	0.1	128.1	0.0	127.6	0.5
		9歳	134.1	134.2	-0.1	134.5	-0.4	133.0	1.1
		10歳	141.5	141.5	0.0	141.4	0.1	140.5	1.0
		11歳	147.9	147.7	0.2	147.9	0.0	146.4	1.5
中学校		12歳	152.1	152.1	0.0	152.2	-0.1	151.6	0.5
		13歳	155.0	154.8	0.2	154.9	0.1	155.1	-0.1
		14歳	156.5	156.3	0.2	156.5	0.0	156.6	-0.1
高等学校		15歳	156.6	156.6	0.0	157.2	-0.6	157.2	-0.6
		16歳	157.2	157.6	-0.4	157.7	-0.5	157.9	-0.7
		17歳	158.2	157.6	0.6	158.0	0.2	157.9	0.3

(注)30年前(親の世代)は、平成4年度の数値。

(2) 体重

体重の推移は、男子は平成 17 年度あたりから、女子は平成 9 年度あたりから横ばい又は減少傾向となっている。

ア 前年度との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、10 歳の 35.4 kg (前年度より 1.8 kg 増) で、次いで 15 歳の 59.2 kg (同 1.2 kg 増)、11 歳の 40.0 kg、13 歳の 50.7 kg 及び 17 歳の 63.5 kg (同 1.1 kg 増) であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、7 歳の 24.2 kg 及び 15 歳の 51.1 kg (同 0.7 kg 増) 並びに 16 歳の 52.1 kg (同 0.7 kg 減) であった。

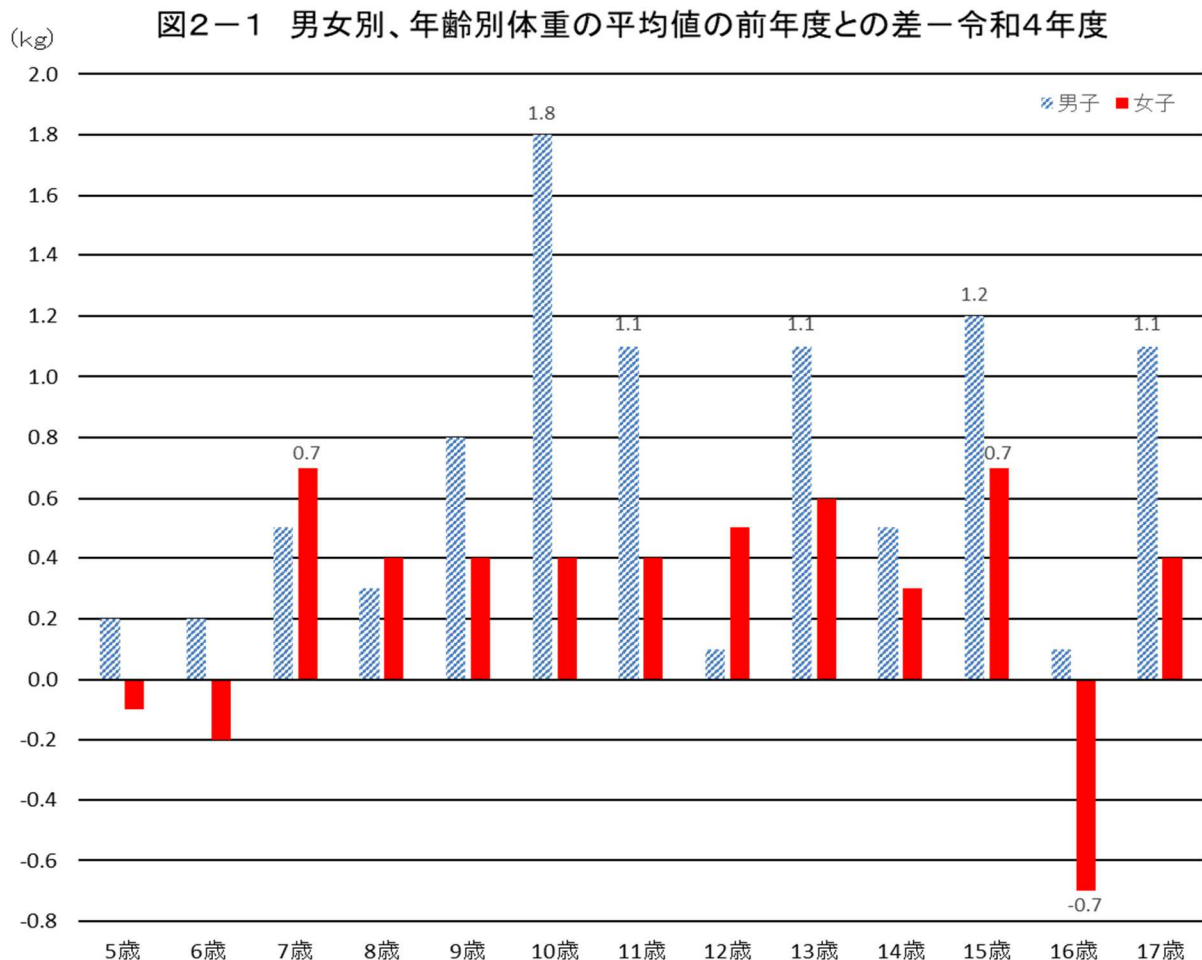
イ 全国との比較

- ・男子をみると、17 歳の 63.5 kg (全国より 1.0 kg 増) で、次いで 8 歳の 27.4 kg 及び 12 歳の 45.1 kg (同 0.6 kg 減) であった。
- ・女子をみると、13 歳の 48.3 kg (同 0.6 kg 増) で、次いで 5 歳の 18.6 kg (同 0.4 kg 減) であった。

ウ 30 年前 (親の世代：平成 4 年度) との比較

- ・男子で大きく増減した年齢は、11 歳の 40.0 kg (30 年前より 2.4 kg 増) で、次いで 12 歳の 45.1 kg、13 歳の 50.7 kg 及び 17 歳の 63.5 kg (同 2.2 kg 増) であった。
- ・女子で大きく増減した年齢は、11 歳の 40.7 kg (同 1.6 kg 増)、次いで 9 歳の 31.0 kg (同 1.2 kg 増)、12 歳の 44.7 kg (同 1.0 kg 増) 並びに 16 歳の 52.1 kg (同 1.0 kg 減) であった。

(図 2-1 ~ 2-5、表 2 統計表 表 1、表 3-1 ~ 3-2)



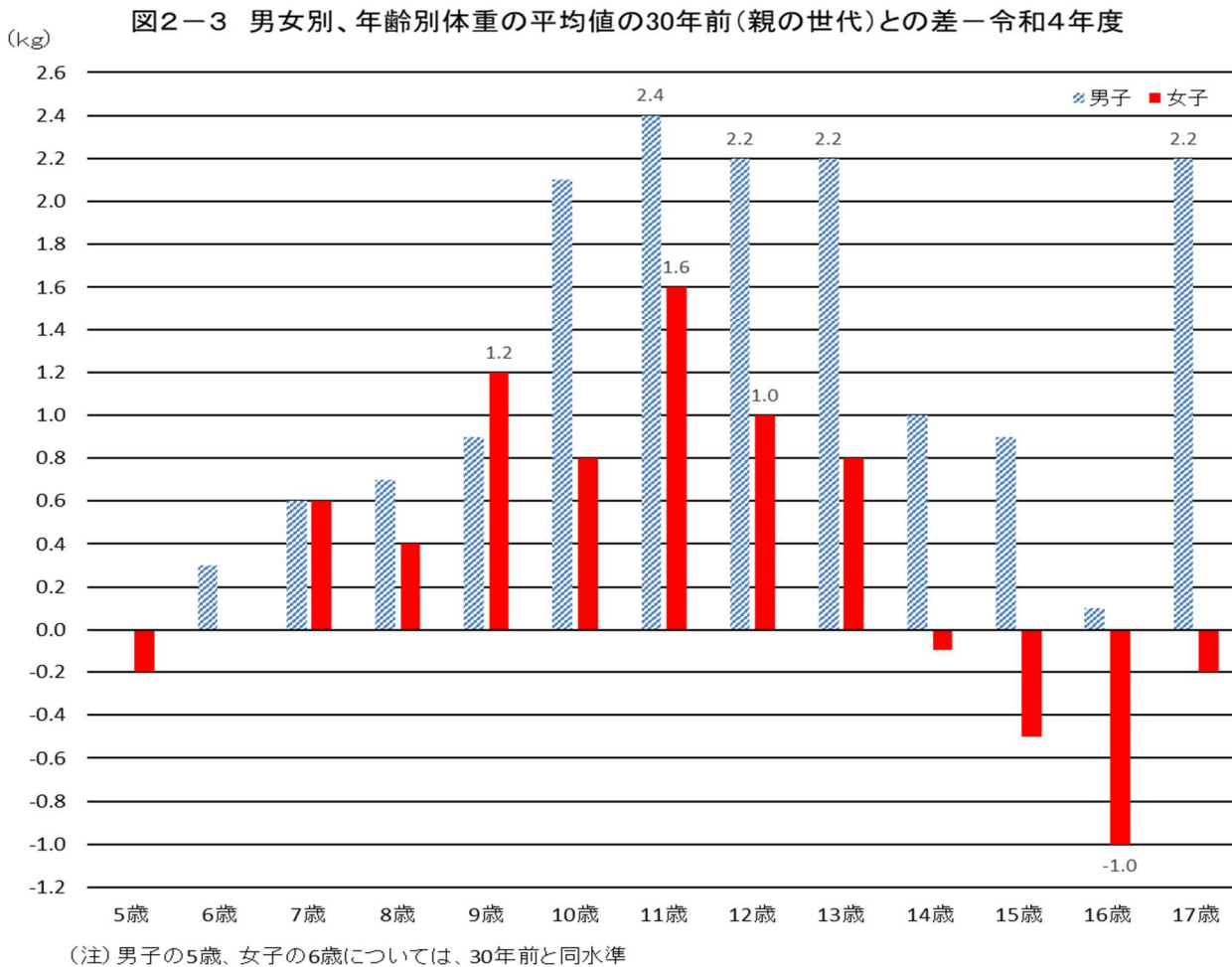
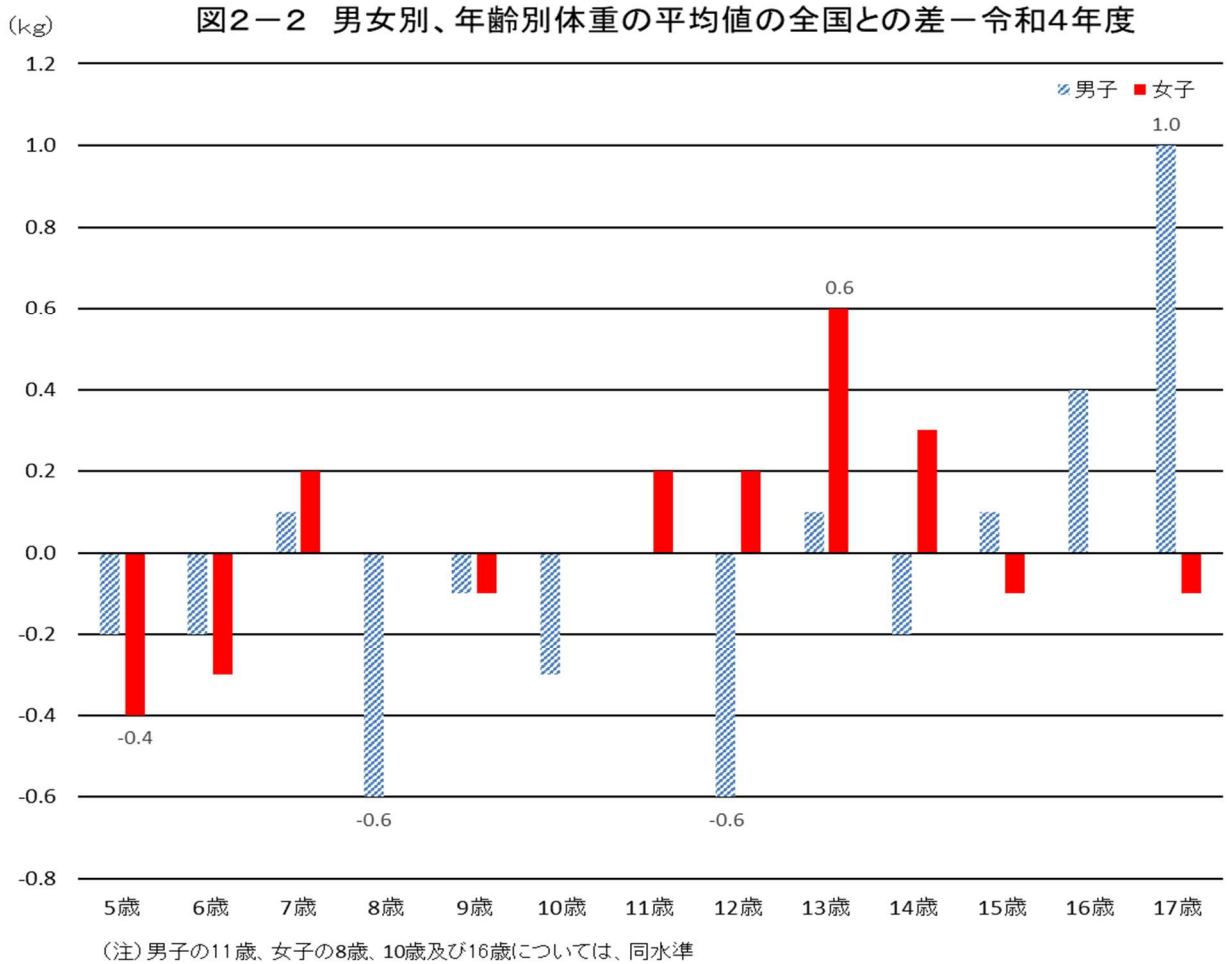
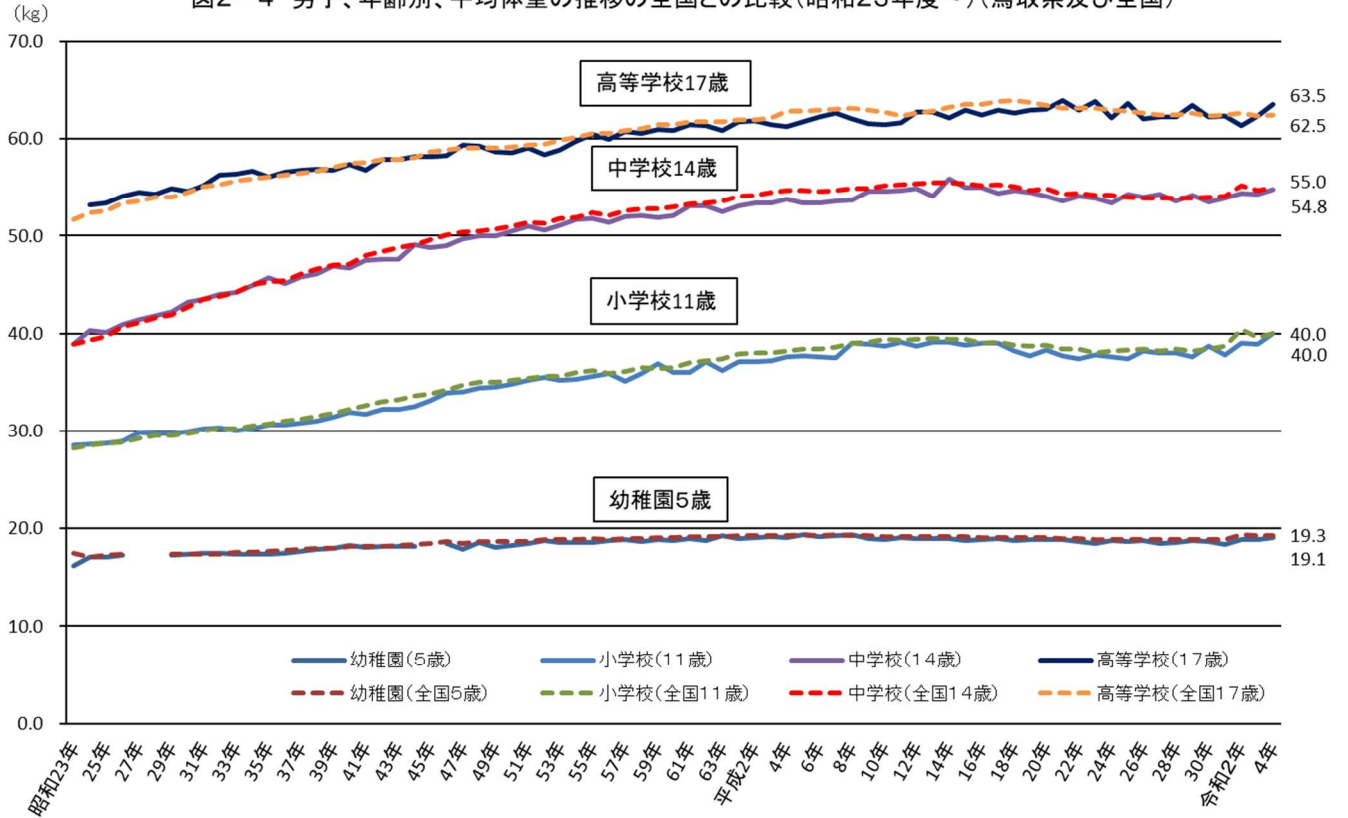
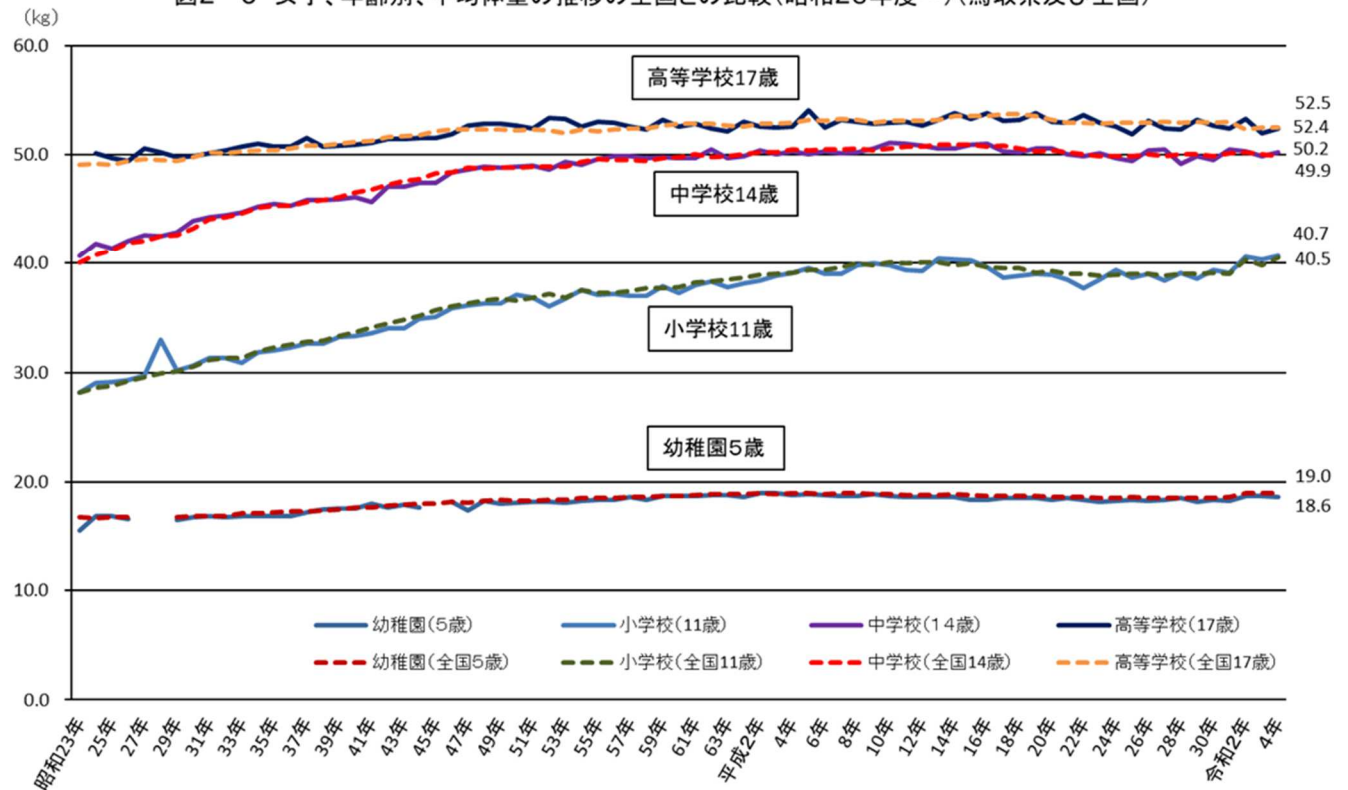


図2-4 男子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)



(注) 1 幼稚園(5歳)の昭和27年度及び28年度は調査していない。
 2 グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

図2-5 女子、年齢別、平均体重の推移の全国との比較(昭和23年度～)(鳥取県及び全国)



(注) 1 幼稚園(5歳)の昭和27年度及び28年度は調査していない。
 2 グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

表2 男女別、年齢別体重の平均値の比較(鳥取県:令和4年度、令和3年度、平成4年度/全国:令和4年度)

(単位:kg)

区分		令和4年度 (A)	令和3年度 (B)	前年度との差 (A-B)	全国(R4) (C)	全国との差 (A-C)	30年前(親の世代) <平成4年度> (D)	親の世代との差 (A-D)	
男子	幼稚園	5歳	19.1	18.9	0.2	19.3	-0.2	19.1	0.0
	小学校	6歳	21.6	21.4	0.2	21.8	-0.2	21.3	0.3
		7歳	24.7	24.2	0.5	24.6	0.1	24.1	0.6
		8歳	27.4	27.1	0.3	28.0	-0.6	26.7	0.7
		9歳	31.4	30.6	0.8	31.5	-0.1	30.5	0.9
		10歳	35.4	33.6	1.8	35.7	-0.3	33.3	2.1
		11歳	40.0	38.9	1.1	40.0	0.0	37.6	2.4
	中学校	12歳	45.1	45.0	0.1	45.7	-0.6	42.9	2.2
		13歳	50.7	49.6	1.1	50.6	0.1	48.5	2.2
		14歳	54.8	54.3	0.5	55.0	-0.2	53.8	1.0
	高等学校	15歳	59.2	58.0	1.2	59.1	0.1	58.3	0.9
		16歳	61.1	61.0	0.1	60.7	0.4	61.0	0.1
		17歳	63.5	62.4	1.1	62.5	1.0	61.3	2.2
女子	幼稚園	5歳	18.6	18.7	-0.1	19.0	-0.4	18.8	-0.2
	小学校	6歳	21.0	21.2	-0.2	21.3	-0.3	21.0	0.0
		7歳	24.2	23.5	0.7	24.0	0.2	23.6	0.6
		8歳	27.3	26.9	0.4	27.3	0.0	26.9	0.4
		9歳	31.0	30.6	0.4	31.1	-0.1	29.8	1.2
		10歳	35.5	35.1	0.4	35.5	0.0	34.7	0.8
		11歳	40.7	40.3	0.4	40.5	0.2	39.1	1.6
	中学校	12歳	44.7	44.2	0.5	44.5	0.2	43.7	1.0
		13歳	48.3	47.7	0.6	47.7	0.6	47.5	0.8
		14歳	50.2	49.9	0.3	49.9	0.3	50.3	-0.1
	高等学校	15歳	51.1	50.4	0.7	51.2	-0.1	51.6	-0.5
		16歳	52.1	52.8	-0.7	52.1	0.0	53.1	-1.0
		17歳	52.4	52.0	0.4	52.5	-0.1	52.6	-0.2

(注) 30年前(親の世代)は、平成4年度の数値。

(3) 肥満傾向児の出現率

- ・肥満傾向児の出現率の推移は、年齢でバラツキがあるが概ね横ばい傾向であったが、5歳を除くすべての年齢で増加。特に6歳、7歳及び9歳～13歳で過去最多であった。
- ・5歳の肥満傾向児の出現率（1.32%）は全国最少。

ア 前年度との比較

- ・前年度と比べると、5歳を除くすべての年齢で増加した。特に11歳は13.78%で前年（10.03%）を3.75ポイント上回った。また、6歳、7歳及び9歳～13歳については、現在の計算方式になった平成18年度以降で過去最多であった。
- ・男女別にみると、男子は、5歳を除くすべての年齢で増加した。女子は、6歳～9歳、11歳～13歳、15歳及び17歳で増加した。

イ 全国との比較

- ・11歳、16歳及び17歳を除くすべての年齢で全国を下回っており、特に5歳は1.32%で全国（3.64%）を2.32ポイント下回り、全国最少の出現率であった。また、16歳は10.66%で全国（9.09%）を1.57ポイント、11歳は13.78%で全国（12.25%）を1.53ポイント上回った。

（図3-1～3-2、表3-1～3-3 統計表 表4-1～4-2）

図3-1 年齢別、肥満傾向児の出現率の前年度との差（令和4年度）（鳥取県）

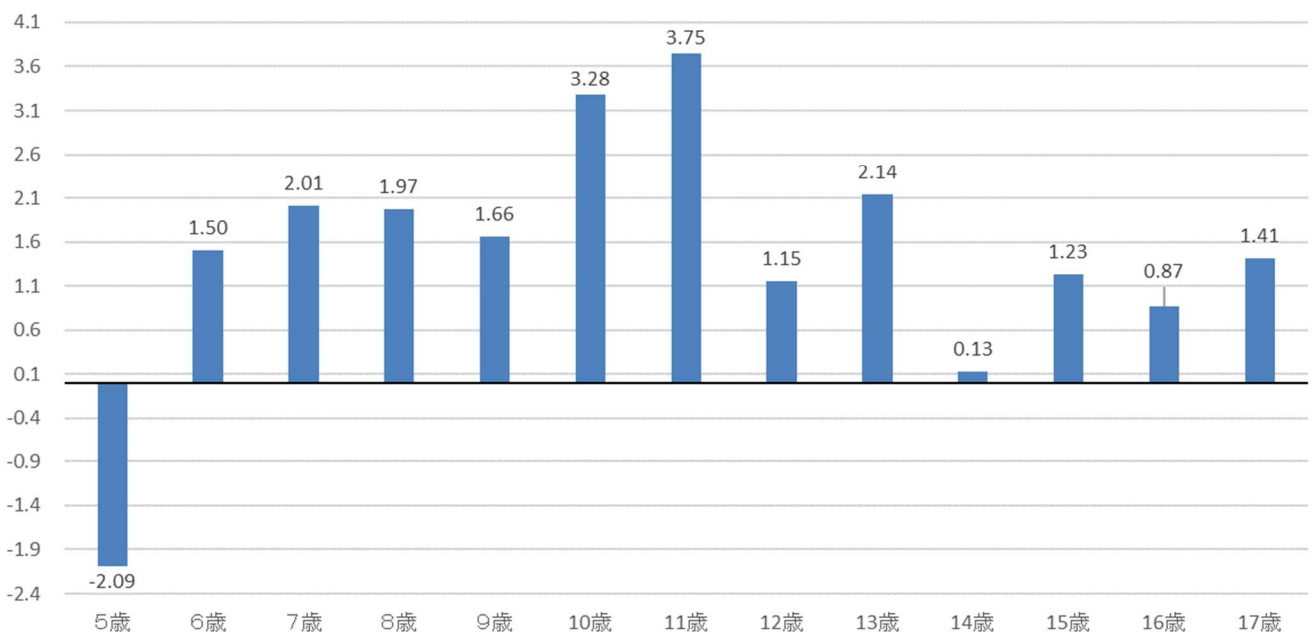
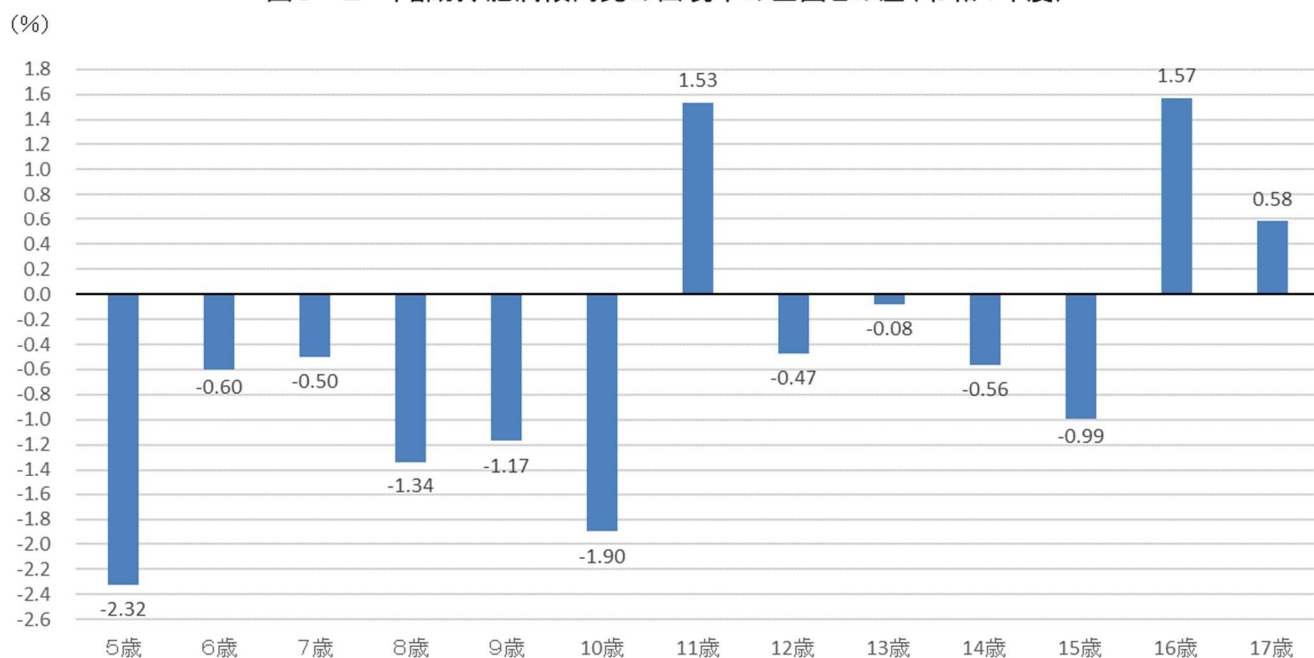


図3-2 年齢別、肥満傾向児の出現率の全国との差(令和4年度)



(注) 数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表3-1 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和4年度)(鳥取県:計)
(単位:%)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	2.73	4.68	6.53	7.24	9.01	5.81	8.32	10.08	8.78	9.21	11.68	11.59	8.25
19年	1.75	4.87	6.09	6.80	8.86	9.49	7.80	8.58	8.21	8.28	8.48	7.93	11.08
20年	2.63	4.37	4.82	8.64	6.60	7.62	8.72	8.24	8.22	8.61	10.51	8.53	9.62
21年	2.44	3.11	5.76	7.34	7.71	6.98	6.15	9.22	6.68	7.55	9.67	6.03	8.37
22年	1.77	3.35	4.23	6.14	6.39	6.05	6.07	7.78	7.43	6.89	9.23	7.10	9.44
23年	1.12	3.81	4.96	6.59	8.38	8.72	7.68	7.67	8.33	7.83	7.08	7.21	8.03
24年	2.54	3.73	3.15	4.97	7.50	8.00	8.04	7.90	6.34	5.45	8.93	5.84	7.30
25年	2.09	4.38	4.51	7.28	8.07	5.91	7.13	8.96	7.47	7.34	7.07	7.85	7.62
26年	2.31	4.16	5.62	5.68	6.60	7.19	7.95	6.97	8.47	6.85	7.23	7.83	7.07
27年	1.62	3.69	5.29	6.74	7.75	6.81	7.74	8.29	6.81	8.30	9.32	8.18	7.69
28年	2.69	3.39	4.19	5.80	5.98	8.23	6.77	9.23	6.79	5.34	8.87	6.67	6.84
29年	2.03	4.43	5.50	4.28	9.49	6.04	8.16	6.90	7.85	7.56	9.83	8.57	9.67
30年	1.87	3.95	5.34	5.73	8.39	9.41	9.89	8.11	7.64	7.04	9.61	8.74	9.31
令和元年	0.77	4.25	6.83	5.95	9.61	7.54	7.21	7.67	6.91	7.48	8.21	8.61	7.52
2年	2.81	4.99	6.03	8.99	8.30	8.81	9.95	8.87	8.13	9.34	8.49	8.07	7.01
3年	3.41	3.52	5.12	6.82	8.58	7.30	10.03	9.81	8.46	8.86	7.91	9.79	8.63
4年	1.32	5.02	7.13	8.79	10.24	10.58	13.78	10.96	10.60	8.99	9.14	10.66	10.04
前年との差 (R4年 -R3年)	-2.09	1.50	2.01	1.97	1.66	3.28	3.75	1.15	2.14	0.13	1.23	0.87	1.41

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表3-2 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和4年度)(鳥取県:男)
(単位:%)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	2.18	3.54	7.65	7.43	7.71	7.32	10.28	11.42	9.94	10.39	14.16	13.31	7.68
19年	1.68	4.79	6.38	8.05	9.93	10.61	8.22	8.75	9.24	7.97	8.50	8.79	9.92
20年	3.15	3.77	4.06	8.32	6.54	9.13	10.55	8.43	9.09	8.54	13.94	8.50	12.01
21年	2.29	3.18	6.18	7.11	11.08	7.70	7.89	10.42	6.34	7.28	10.67	7.22	9.56
22年	1.19	3.24	5.24	6.31	6.64	5.38	7.16	7.38	7.83	6.57	10.05	8.59	11.27
23年	0.89	6.25	4.70	6.14	8.84	12.22	9.03	9.35	7.39	8.25	7.62	8.76	10.99
24年	3.22	3.91	2.55	5.49	6.31	7.45	8.42	8.07	6.62	6.02	9.19	5.78	7.09
25年	1.35	4.27	5.43	5.89	9.60	6.38	8.03	9.67	7.58	7.41	6.67	6.77	10.29
26年	2.84	4.04	5.88	4.91	5.99	7.91	8.95	7.97	8.69	6.07	7.06	7.38	6.02
27年	1.20	4.38	5.89	4.74	8.90	7.91	8.44	7.91	6.78	7.80	11.38	10.08	7.35
28年	2.28	2.37	4.44	5.40	6.00	9.09	7.20	9.09	6.23	6.18	8.78	5.55	8.16
29年	2.64	4.86	4.71	4.41	10.77	6.68	8.47	8.21	7.32	7.55	12.62	8.86	12.98
30年	1.28	4.70	4.35	5.76	7.14	10.17	9.56	8.81	9.26	7.04	9.38	11.29	9.35
令和元年	0.32	4.06	7.17	8.00	10.62	9.30	6.60	7.72	6.77	6.75	8.30	7.89	8.85
2年	3.63	5.29	7.44	9.97	10.00	9.95	9.70	10.69	9.76	10.64	9.55	9.24	7.72
3年	3.67	3.79	6.17	6.42	9.04	7.35	10.21	11.08	8.41	9.04	9.87	9.98	10.42
4年	1.74	4.21	7.02	8.45	11.34	14.25	16.18	11.12	11.20	10.15	10.31	15.45	11.98
前年との差 (R4年 -R3年)	-1.93	0.42	0.85	2.03	2.30	6.90	5.97	0.04	2.79	1.11	0.44	5.47	1.56

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど肥満傾向が高い。

表3-3 年齢別肥満傾向児の出現率の推移及び前年度との差(平成18年度～令和4年度)(鳥取県:女)
(単位:%)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	3.27	5.82	5.32	7.04	10.38	4.24	6.30	8.76	7.56	7.94	9.12	9.85	8.83
19年	1.81	4.95	5.76	5.44	7.74	8.32	7.36	8.42	7.20	8.62	8.45	7.05	12.27
20年	2.08	4.98	5.61	9.00	6.67	6.04	6.81	8.04	7.37	8.68	6.96	8.56	7.16
21年	2.60	3.04	5.33	7.57	4.07	6.20	4.32	7.98	7.04	7.81	8.70	4.81	7.13
22年	2.35	3.47	3.22	5.96	6.12	6.79	4.90	8.19	7.01	7.22	8.44	5.68	7.56
23年	1.37	1.39	5.24	7.04	7.91	5.04	6.22	5.89	9.31	7.39	6.53	5.75	5.16
24年	1.85	3.53	3.74	4.40	8.68	8.56	7.64	7.72	6.05	4.86	8.67	5.89	7.50
25年	2.83	4.50	3.56	8.66	6.39	5.43	6.21	8.23	7.35	7.25	7.49	8.92	5.00
26年	1.74	4.28	5.34	6.48	7.20	6.40	6.94	5.94	8.23	7.69	7.41	8.28	8.09
27年	2.02	2.94	4.68	8.83	6.57	5.72	6.98	8.67	6.84	8.82	7.11	6.22	8.03
28年	3.13	4.44	3.92	6.21	5.96	7.34	6.35	9.38	7.36	4.49	8.98	7.85	5.46
29年	1.44	3.96	6.32	4.15	8.16	5.38	7.84	5.62	8.43	7.56	6.99	8.27	6.19
30年	2.45	3.21	6.41	5.70	9.75	8.63	10.25	7.40	6.04	7.03	9.83	6.16	9.26
令和元年	1.23	4.44	6.51	3.78	8.58	5.60	7.84	7.62	7.06	8.21	8.11	9.33	6.18
2年	1.94	4.68	4.56	8.05	6.47	7.63	10.22	6.97	6.41	8.03	7.45	6.86	6.31
3年	3.13	3.25	4.03	7.23	8.13	7.25	9.86	8.41	8.51	8.67	5.90	9.61	6.77
4年	0.86	5.88	7.24	9.14	9.11	7.03	11.21	10.79	9.94	7.78	7.89	5.81	8.12
前年との差 (R4年 -R3年)	-2.27	2.63	3.21	1.91	0.98	-0.22	1.35	2.38	1.43	-0.89	1.99	-3.80	1.35

(注) 肥満傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が20%以上の者である。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど肥満傾向が高い。

(4) 痩身傾向児の出現率

- ・ 痩身傾向児の出現率の推移は、年齢でバラツキがあるが概ね横ばい傾向であったが、6歳～9歳、14歳、15歳及び16歳は、前年度と比べると増加した。
- ・ 全国と比較すると、8歳、16歳以外の年齢で全国を下回った。

ア 前年度との比較

- ・ 前年度と比べると、6歳～9歳、14歳、15歳及び16歳で増加、その他の年齢は減少した。また、16歳については、現在の計算方式になった平成18年度以降で過去最大であった。
- ・ 男女別にみると、男子は7歳～9歳、14歳、15歳及び16歳で増加、その他の年齢は減少し、そのうち15歳の5.40%（前年度に比べ2.09ポイント増）については、現在の計算方式になった平成18年以降で最大であった。女子は8歳、9歳及び17歳で増加、その他の年齢は減少した。

イ 全国との比較

- ・ 8歳、16歳以外の年齢で全国を下回っており、そのうち12歳は2.38%で全国（3.58%）を1.15ポイント下回った。

(図4-1～4-2、表4-1～4-3 統計表 表5-1～5-2)

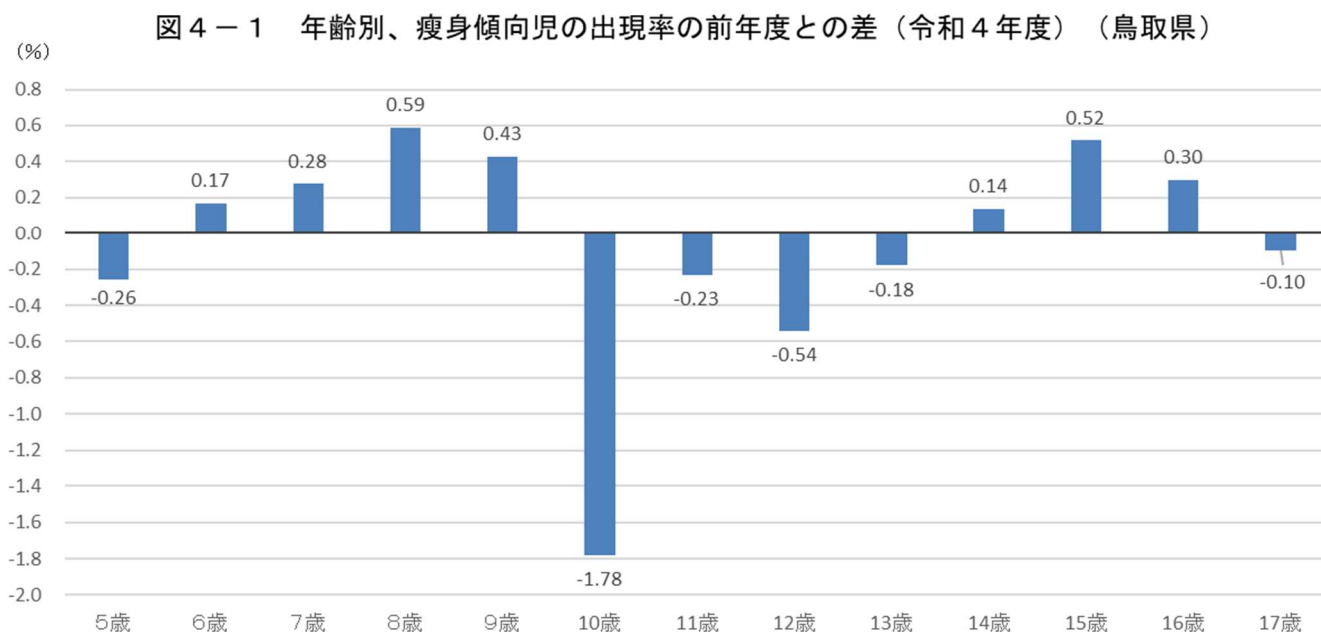


図4-2 年齢別、痩身傾向児の出現率の全国との差（令和4年度）

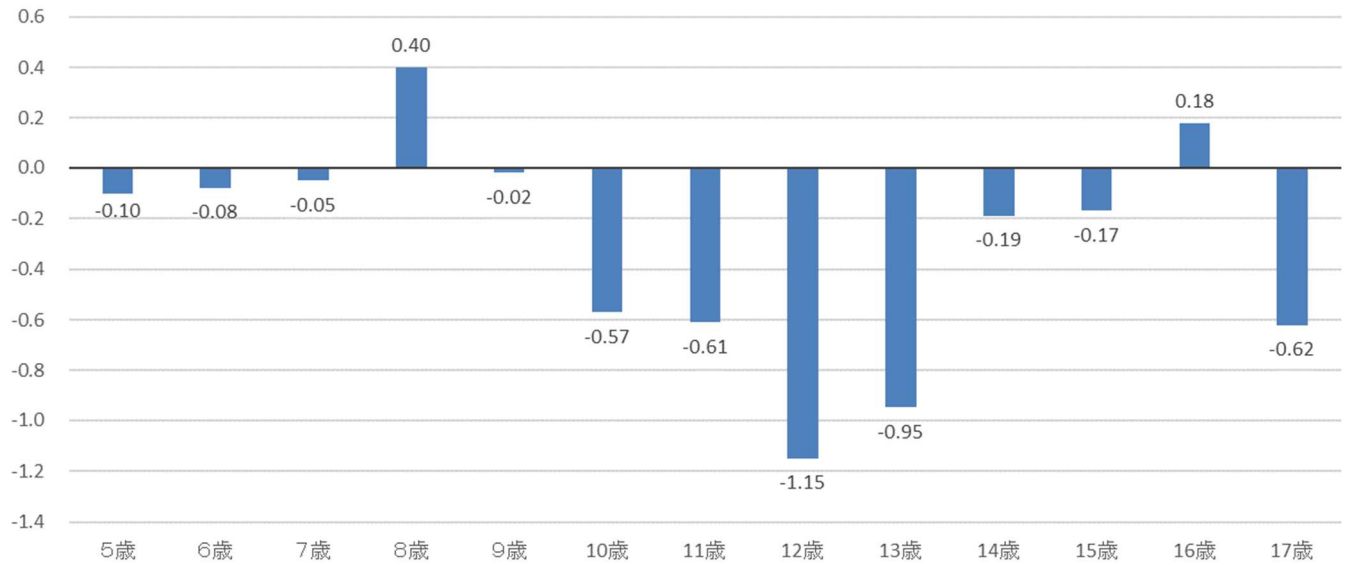


表4-1 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和4年度）（鳥取県：計）

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.14	1.01	0.59	0.90	1.53	3.08	2.26	2.34	1.72	1.70	2.48	1.26	1.88
19年	0.39	0.62	0.67	0.47	1.61	2.22	2.67	3.38	2.39	2.06	4.14	1.81	2.20
20年	0.81	0.63	0.75	0.64	1.82	3.13	2.13	3.89	2.90	2.85	2.98	2.09	1.35
21年	0.12	0.20	0.49	0.32	1.74	2.60	2.98	3.09	2.93	2.80	2.22	2.42	2.55
22年	0.51	0.10	-	0.95	1.71	1.79	3.75	2.40	2.26	2.06	2.41	1.21	1.70
23年	0.39	0.35	0.24	0.78	1.15	1.66	2.90	3.72	2.79	2.31	1.78	0.95	2.18
24年	0.18	0.71	0.83	0.72	2.11	2.25	3.09	2.39	2.49	1.73	1.76	2.46	1.31
25年	0.31	0.59	0.34	0.84	1.59	2.10	2.46	2.71	2.45	1.96	4.12	2.03	2.27
26年	0.53	0.13	0.52	0.75	1.14	2.22	2.98	2.91	2.14	2.26	3.86	1.86	2.38
27年	0.27	0.79	0.76	0.52	2.54	2.70	1.60	2.57	3.04	2.19	3.29	1.96	2.89
28年	0.30	0.26	0.93	1.64	2.06	2.47	3.05	3.64	2.65	3.12	2.18	2.38	1.46
29年	0.53	0.86	0.43	0.84	0.94	2.35	2.39	3.26	2.69	2.01	3.02	1.63	2.68
30年	0.30	0.52	0.72	1.00	0.94	2.60	2.48	3.80	3.41	2.25	2.51	3.12	3.27
令和元年	0.38	0.49	0.78	0.65	1.75	1.64	3.09	3.23	2.70	2.81	2.51	2.76	3.61
2年	0.38	0.21	0.53	0.57	1.39	1.73	2.48	3.31	2.28	2.16	2.62	3.14	2.02
3年	0.35	0.11	0.11	0.60	1.19	3.65	2.28	2.92	2.16	2.64	3.10	3.21	2.33
4年	0.09	0.28	0.39	1.19	1.62	1.87	2.05	2.38	1.98	2.78	3.62	3.51	2.23
前年との差 (R4年 -R3年)	-0.26	0.17	0.28	0.59	0.43	-1.78	-0.23	-0.54	-0.18	0.14	0.52	0.30	-0.10

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。
 肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)
 数値が大きいほど痩身傾向が高い。

表4-2 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和4年度）（鳥取県：男）

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.15	0.43	0.24	0.36	2.26	2.03	2.50	1.60	0.87	0.70	3.29	0.39	2.68
19年	0.14	0.37	0.18	0.52	1.27	2.85	3.12	2.82	1.30	2.29	2.90	2.20	1.77
20年	1.57	0.77	0.82	0.38	2.07	3.00	2.56	2.57	1.63	2.44	3.08	1.68	1.21
21年	0.12	-	0.21	0.16	1.02	3.14	4.07	3.18	1.78	2.24	2.47	2.93	3.17
22年	0.32	-	-	0.95	1.30	2.01	3.08	2.07	0.85	1.73	3.08	1.84	1.89
23年	0.57	0.44	-	1.15	1.18	1.82	3.80	2.45	2.15	1.87	1.55	1.82	1.91
24年	0.21	0.48	0.99	0.36	1.59	1.89	3.29	2.47	0.90	2.00	1.94	0.30	1.53
25年	0.62	0.66	0.50	0.90	1.80	1.91	1.73	1.36	1.67	0.91	4.25	2.38	1.36
26年	0.28	-	0.17	1.01	1.19	3.33	2.83	3.10	1.40	1.77	3.34	2.01	1.48
27年	-	0.41	0.80	0.16	3.41	2.36	1.86	2.68	1.74	1.32	3.61	1.80	2.01
28年	0.18	-	1.29	1.60	1.64	1.97	4.26	2.56	1.98	2.84	2.16	3.30	1.46
29年	0.15	1.06	-	0.80	1.07	2.20	2.18	2.88	2.25	1.56	3.48	2.32	2.84
30年	0.22	0.55	0.94	1.65	0.89	3.73	2.70	3.01	2.63	2.61	3.50	3.90	3.97
令和元年	-	0.73	0.75	0.78	1.86	1.65	3.84	2.53	2.12	3.66	2.14	3.85	4.39
2年	0.44	-	0.40	0.32	1.06	2.50	3.47	2.84	1.92	1.78	2.12	3.73	3.04
3年	0.43	-	0.22	0.64	1.44	4.50	2.52	2.42	2.31	3.05	3.31	2.98	3.05
4年	0.17	0.54	0.42	1.03	1.52	2.51	2.50	2.22	2.07	3.56	5.40	3.86	2.13
前年との差 (R4年 -R3年)	-0.26	-	0.20	0.39	0.08	-1.99	-0.02	-0.20	-0.24	0.51	2.09	0.88	-0.92

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど痩身傾向が高い。

表4-3 年齢別痩身傾向児の出現率の推移及び前年度との差（平成18年度～令和4年度）（鳥取県：女）

(単位：%)

区分	幼稚園	小学校						中学校			高等学校		
	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳	11歳	12歳	13歳	14歳	15歳	16歳	17歳
平成18年	0.13	1.59	0.97	1.47	0.76	4.16	2.01	3.07	2.62	2.76	1.64	2.15	1.07
19年	0.63	0.89	1.21	0.42	1.98	1.57	2.20	3.92	3.47	1.82	5.42	1.40	2.64
20年	-	0.50	0.67	0.92	1.56	3.28	1.69	5.25	4.13	3.26	2.87	2.52	1.50
21年	0.12	0.41	0.78	0.49	2.51	2.03	1.84	3.01	4.12	3.35	1.97	1.90	1.92
22年	0.70	0.20	-	0.95	2.15	1.54	4.46	2.75	3.71	2.41	1.75	0.60	1.50
23年	0.20	0.26	0.49	0.41	1.11	1.49	1.93	5.08	3.47	2.78	2.02	0.12	2.45
24年	0.16	0.94	0.67	1.11	2.64	2.60	2.88	2.30	4.18	1.45	1.57	4.58	1.09
25年	-	0.51	0.18	0.79	1.37	2.30	3.22	4.13	3.29	3.08	3.99	1.68	3.18
26年	0.80	0.25	0.88	0.48	1.09	1.00	3.13	2.72	2.91	2.80	4.41	1.70	3.27
27年	0.54	1.20	0.71	0.90	1.65	3.04	1.32	2.46	4.36	3.09	2.95	2.13	3.80
28年	0.43	0.53	0.54	1.67	2.49	2.99	1.86	4.83	3.32	3.40	2.20	1.40	1.47
29年	0.89	0.64	0.88	0.88	0.81	2.51	2.60	3.62	3.17	2.46	2.55	0.94	2.50
30年	0.37	0.49	0.48	0.33	1.00	1.43	2.26	4.61	4.19	1.85	1.51	2.33	2.57
令和元年	0.78	0.24	0.81	0.51	1.64	1.63	2.29	3.96	3.30	1.97	2.89	1.69	2.83
2年	0.32	0.43	0.67	0.80	1.75	0.93	1.38	3.80	2.65	2.55	3.12	2.52	1.01
3年	0.26	0.22	-	0.56	0.95	2.73	2.03	3.47	2.01	2.21	2.88	3.43	1.58
4年	-	-	0.36	1.36	1.72	1.25	1.57	2.56	1.88	1.98	1.71	3.16	2.33
前年との差 (R4年 -R3年)	-	-	-	0.80	0.77	-1.48	-0.46	-0.91	-0.13	-0.23	-1.17	-0.27	0.75

(注) 痩身傾向児とは、性別・年齢別・身長別標準体重から肥満度を求め、肥満度が-20%以下のものである。

肥満度 = (実測体重 - 身長別標準体重) / 身長別標準体重 × 100 (%)

数値が大きいほど痩身傾向が高い。

2 健康状態（疾病・異常の被患率等状況）

- ・裸眼視力（1.0未満）の推移をみると、幼稚園においては、平成24年頃をピークに減少傾向となっているが、その他の学校では増加傾向で、小学校、中学校及び高等学校は過去最多であった。
- ・鼻・副鼻腔疾患の推移は、バラツキはあるが減少傾向となっているが、幼稚園以外の学校で全国を上回った。
- ・むし歯（う歯）の推移は、昭和50年代をピークに減少傾向となっており、すべての学校で過去最少であった。
- ・アトピー性皮膚炎の推移は減少傾向となっているが、すべての学校で全国を上回った。
- ・ぜん息の推移は平成23年頃から減少傾向となっているが、高等学校以外の学校で全国を上回った。

（1）前年度との比較

ア 裸眼視力1.0未満

- ・全体の割合を前年度と比べると、幼稚園が16.8%で6.9ポイント減少、小学校が35.6%で0.1ポイント、中学校が64.9%で2.6ポイント、高等学校が80.6%で8.0ポイント増加し、小学校、中学校及び高等学校は過去最多であった。
- ・男女別にみると、男子は幼稚園で減少、小学校は33.4%で0.4ポイント、中学校は59.6%で2.9ポイント増加し過去最多、高等学校も79.0%で過去最多であった。女子は幼稚園及び小学校で減少、中学校及び高等学校で増加し、中学校は70.5%で2.2ポイント増加し過去最多であった。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・全体の割合を前年度と比べると、幼稚園以外の学校で減少した。
- ・男女別にみると、男子は小学校及び高等学校で減少し、女子は幼稚園以外の学校で減少した。

ウ むし歯（う歯）

- ・全体の割合を前年度と比べると、幼稚園が23.7%で5.2ポイント、小学校が42.0%で5.5ポイント、中学校が31.7%で1.9ポイント、高等学校が35.2%で6.6ポイント減少し、すべての学校が過去最少であった。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校で減少した。

エ アトピー性皮膚炎

- ・全体の割合を前年度と比べると、幼稚園で増加し、それ以外の学校で減少した。
- ・男女別にみると、男女ともに幼稚園で増加、小学校、中学校及び高等学校で減少した。

オ ぜん息

- ・全体の割合を前年度と比べると、すべての学校で減少した。
- ・男女別にみると、男子はすべての学校で減少した。女子は中学校で増加し、それ以外の学校で減少した。

（表1～3、図5～9、統計表 表6-1～6-3、表7-1～7-3、表8～12）

※健康状態については、各学校の傾向を見るため「平均値」で比較。

表1 男女別、学校区別の健康状態平均値の前年度との比較－令和4年度（鳥取県）

（単位：％）

区分		計				男子				女子			
		幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校
裸眼視力 1.0未満	令和3年	23.7	35.5	62.3	72.6	20.1	33.0	56.7	x	27.6	38.1	68.3	75.0
	令和4年	16.8	35.6	64.9	80.6	16.1	33.4	59.6	79.0	17.5	37.8	70.5	82.1
	差	-6.9	0.1	2.6	8.0	-4.0	0.4	2.9	-	-10.1	-0.3	2.2	7.1
鼻・副鼻 腔疾患	令和3年	-	17.5	24.5	13.0	-	21.3	x	13.6	-	13.5	21.5	12.3
	令和4年	0.2	13.7	18.1	10.3	0.4	16.3	21.9	11.9	-	11.0	14.1	8.6
	差	-	-3.8	-6.4	-2.7	-	-5.0	-	-1.7	-	-2.5	-7.4	-3.7
むし歯 (う歯)	令和3年	28.9	47.5	33.6	41.8	29.6	49.7	33.5	39.9	28.2	45.3	33.6	43.7
	令和4年	23.7	42.0	31.7	35.2	27.3	43.5	30.9	33.1	19.8	40.5	32.5	37.4
	差	-5.2	-5.5	-1.9	-6.6	-2.3	-6.2	-2.6	-6.8	-8.4	-4.8	-1.1	-6.3
アトピー 性皮膚炎	令和3年	1.7	6.1	4.5	3.4	1.7	6.2	4.6	3.8	1.7	6.0	4.4	3.0
	令和4年	2.2	5.8	4.1	3.3	2.1	6.0	4.1	3.6	2.4	5.6	4.0	2.9
	差	0.5	-0.3	-0.4	-0.1	0.4	-0.2	-0.5	-0.2	0.7	-0.4	-0.4	-0.1
ぜん息	令和3年	1.8	4.9	3.3	2.1	3.0	5.8	4.2	2.4	0.5	4.0	2.4	1.8
	令和4年	1.2	4.4	2.9	1.5	1.9	5.2	3.3	1.6	0.4	3.6	2.5	1.3
	差	-0.6	-0.5	-0.4	-0.6	-1.1	-0.6	-0.9	-0.8	-0.1	-0.4	0.1	-0.5

（注）この表は、疾病・異常該当者（疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者）の割合の推定値を示したものである。

「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい（標準誤差が5%以上）ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当者がいない。

むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(2) 全国との比較

ア 裸眼視力 1.0 未満

- ・全体の割合を全国と比べると、幼稚園が 16.80%及び小学校が 35.60%で全国を下回り、中学校が 64.90%及び高等学校が 80.60%で全国を上回った。
- ・男女別にみると、男女とも中学校及び高等学校で上回り、幼稚園及び小学校で下回った。

イ 鼻・副鼻腔疾患

- ・全体の割合を全国と比べると、幼稚園が 0.20%で全国を下回り、小学校が 13.70%、中学校が 18.10%及び高等学校が 10.30%で全国を上回った。
- ・男女別にみると、男女ともに小学校、中学校及び高等学校で上回った。

ウ むし歯（う歯）

- ・全体の割合を全国と比べると、幼稚園が 23.70%及び高等学校が 35.20%で全国を下回り、小学校が 42.00%及び中学校が 31.70%で全国を上回った。
- ・男女別にみると、男子は高等学校以外の学校で上回り、女子は小学校及び中学校で上回った。

エ アトピー性皮膚炎

- ・全体の割合を全国と比べると、幼稚園が 2.20%、小学校が 5.80%、中学校が 4.10%及び高等学校が 3.30%ですべての学校で全国を上回った。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校で上回った。

オ ぜん息

- ・全体の割合を全国と比べると、幼稚園が 1.20%、小学校が 4.40%及び中学校が 2.90%で全国を上回り、高等学校が 1.50%で全国を下回った。
- ・男女別にみると、男子は高等学校以外の学校で上回り、女子は小学校及び中学校で上回った。

表 2 男女別、学校区別の健康状態平均値の全国との比較－令和 4 年度

(単位:%)

区分	計				男子				女子				
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
鳥取県	裸眼視力1.0未満	16.80	35.60	64.90	80.60	16.10	33.40	59.60	79.00	17.50	37.80	70.50	82.10
	鼻・副鼻腔疾患	0.20	13.70	18.10	10.30	0.40	16.30	21.90	11.90	-	11.00	14.10	8.60
	むし歯（う歯）	23.70	42.00	31.70	35.20	27.30	43.50	30.90	33.10	19.80	40.50	32.50	37.40
	アトピー性皮膚炎	2.20	5.80	4.10	3.30	2.10	6.00	4.10	3.60	2.40	5.60	4.00	2.90
	ぜん息	1.20	4.40	2.90	1.50	1.90	5.20	3.30	1.60	0.40	3.60	2.50	1.30
全国	裸眼視力1.0未満	24.95	37.88	61.23	71.56	25.03	35.10	58.86	70.81	24.87	40.78	63.72	72.33
	鼻・副鼻腔疾患	3.03	11.44	10.70	8.51	3.55	14.08	12.39	9.06	2.48	8.68	8.94	7.94
	むし歯（う歯）	24.93	37.02	28.24	38.30	25.88	38.32	26.98	36.69	23.95	35.67	29.56	39.96
	アトピー性皮膚炎	1.62	3.14	2.96	2.68	1.75	3.33	3.11	2.87	1.48	2.95	2.81	2.49
	ぜん息	1.11	2.85	2.23	1.71	1.41	3.43	2.60	1.91	0.80	2.23	1.83	1.50
差	裸眼視力1.0未満	-8.15	-2.28	3.67	9.04	-8.93	-1.70	0.74	8.19	-7.37	-2.98	6.78	9.77
	鼻・副鼻腔疾患	-2.83	2.26	7.40	1.79	-3.15	2.22	9.51	2.84	-	2.32	5.16	0.66
	むし歯（う歯）	-1.23	4.98	3.46	-3.10	1.42	5.18	3.92	-3.59	-4.15	4.83	2.94	-2.56
	アトピー性皮膚炎	0.58	2.66	1.14	0.62	0.35	2.67	0.99	0.73	0.92	2.65	1.19	0.41
	ぜん息	0.09	1.55	0.67	-0.21	0.49	1.77	0.70	-0.31	-0.40	1.37	0.67	-0.20

(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。
「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当者がいない。
むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

(3) 30年前(親の世代:平成4年度)との比較

ア 裸眼視力1.0未満

- ・幼稚園以外の学校で30年前より裸眼視力1.0未満の割合は増加した。
- ・男女別にみると、男女ともに幼稚園以外の学校で増加した。

イ むし歯(う歯)

- ・すべての学校で30年前よりむし歯(う歯)の割合は減少した。
- ・男女別にみると、男女ともにすべての学校で減少した。

ウ ぜん息

- ・すべての学校で30年前よりぜん息の割合は増加した。
- ・男女別にみると、男子はすべての学校で増加し、女子は幼稚園以外の学校で増加した。

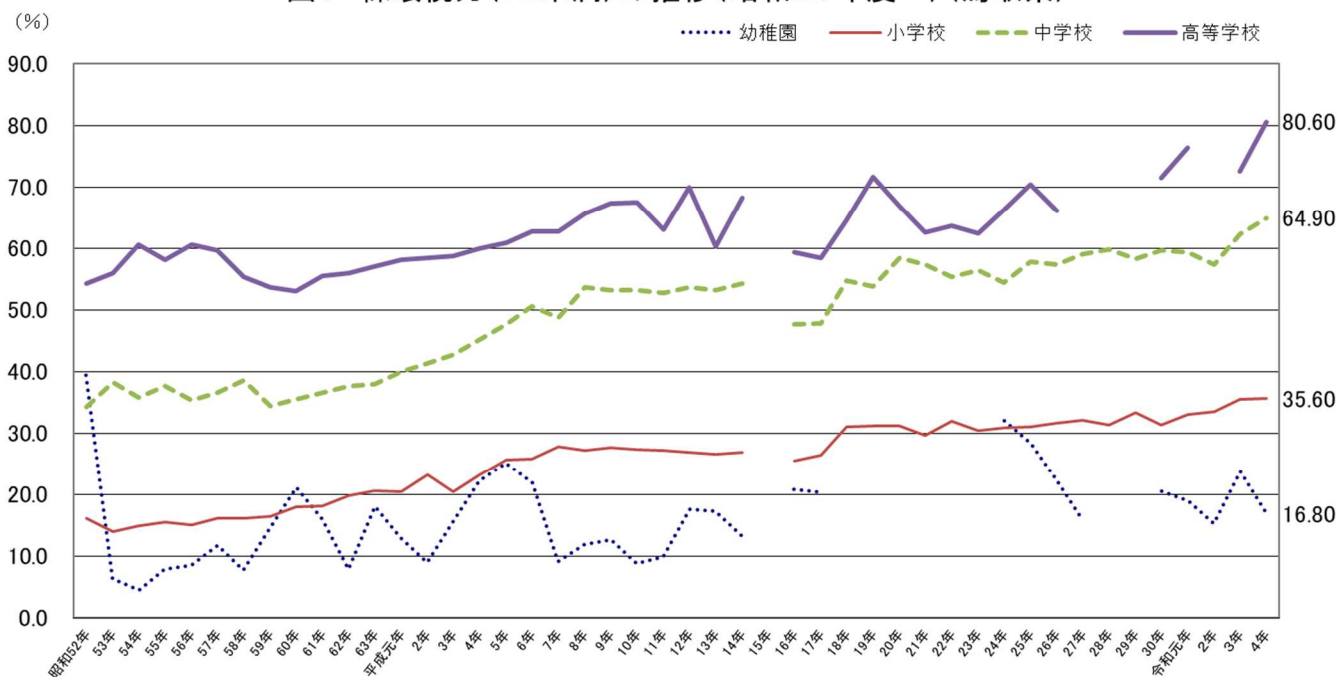
表3 男女別、学校区別の健康状態の30年前(親の世代)との比較—令和4年度(鳥取県)

(単位:%)

区分	計				男子				女子				
	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	幼稚園	小学校	中学校	高等学校	
30年前	裸眼視力1.0未満	22.19	23.18	45.22	60.05	19.86	20.46	39.81	57.98	24.68	26.03	50.92	62.16
	むし歯(う歯)	88.35	94.36	93.64	95.68	87.62	94.21	92.53	94.30	89.12	94.51	94.81	97.08
	ぜん息	0.03	2.32	1.69	0.79	0.06	3.07	2.00	1.07	…	1.53	1.37	0.50
令和4年	裸眼視力1.0未満	16.80	35.60	64.90	80.60	16.10	33.40	59.60	79.00	17.50	37.80	70.50	82.10
	むし歯(う歯)	23.70	42.00	31.70	35.20	27.30	43.50	30.90	33.10	19.80	40.50	32.50	37.40
	ぜん息	1.20	4.40	2.90	1.50	1.90	5.20	3.30	1.60	0.40	3.60	2.50	1.30
差	裸眼視力1.0未満	-5.39	12.42	19.68	20.55	-3.76	12.94	19.79	21.02	-7.18	11.77	19.58	19.94
	むし歯(う歯)	-64.65	-52.36	-61.94	-60.48	-60.32	-50.71	-61.63	-61.20	-69.32	-54.01	-62.31	-59.68
	ぜん息	1.17	2.08	1.21	0.71	1.84	2.13	1.30	0.53	-	2.07	1.13	0.80

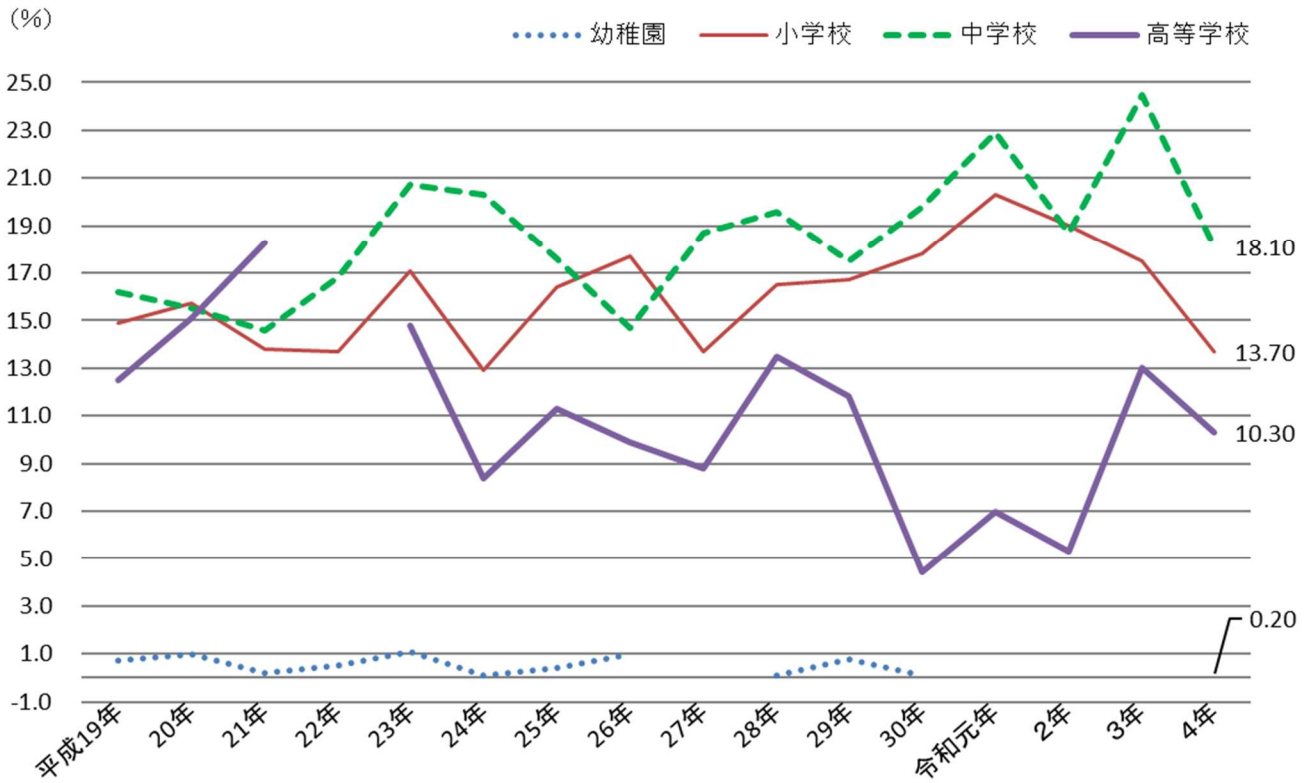
(注) この表は、疾病・異常該当者(疾病・異常に該当する旨健康診断票に記載があった者)の割合の推定値を示したものである。
「X」はサンプル数が少なく、誤差が大きい(標準誤差が5%以上)ため統計数値を公表しない。また、「-」は該当者がいない。
むし歯(う歯)には、処置完了者も含む。

図5 裸眼視力(1.0未満)の推移(昭和23年度~)(鳥取県)



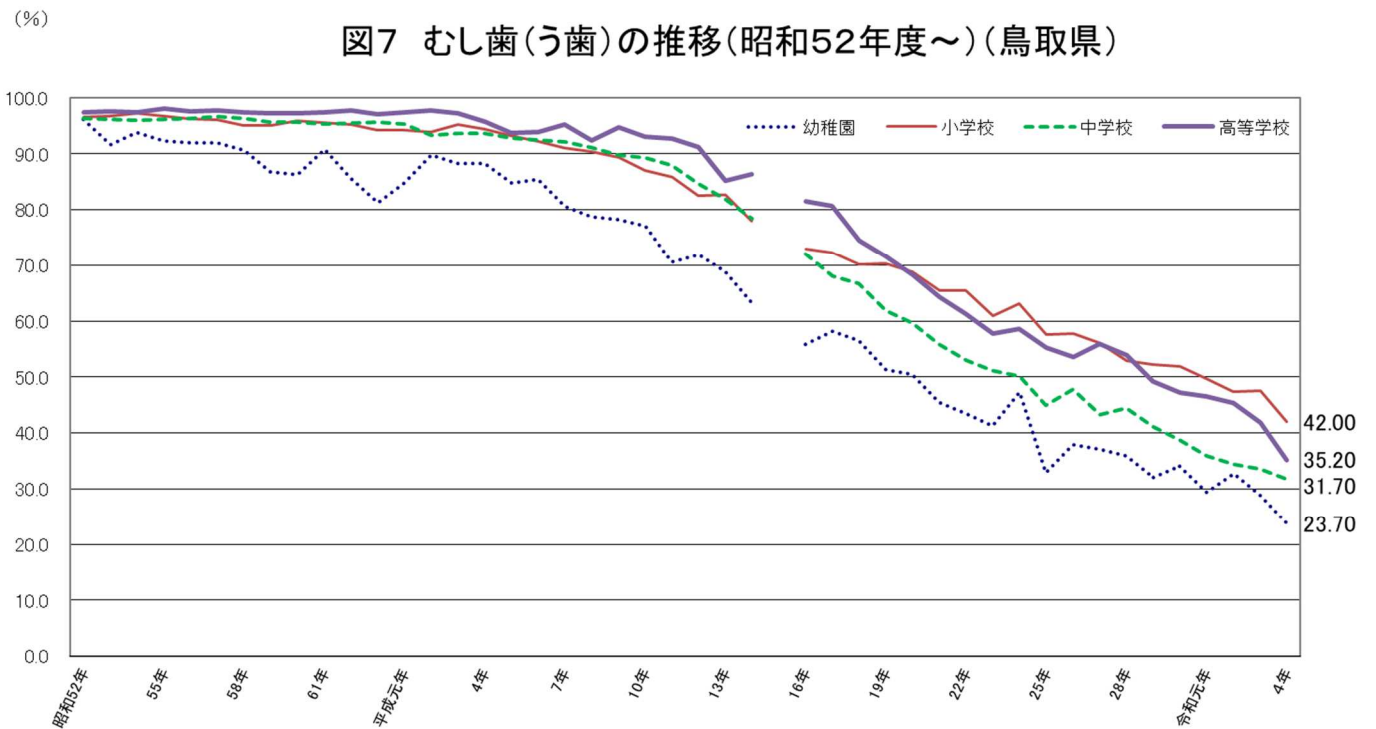
(注) グラフの欠落部分は、「X」又は、「…」処理のため連続しない。

図6 鼻・副鼻腔疾患の推移(平成19年度～)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

図7 むし歯(う歯)の推移(昭和52年度～)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

図8 アトピー性皮膚炎の推移(平成18年度～)(鳥取県)

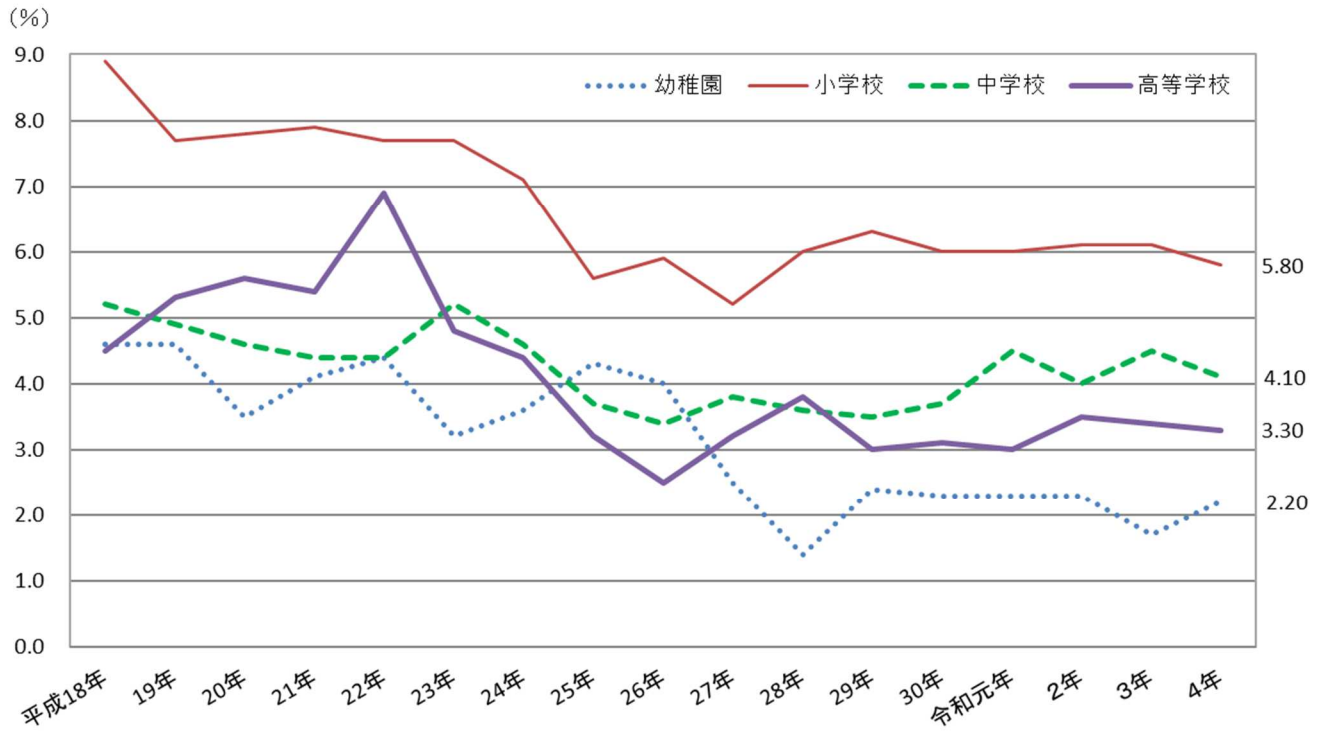
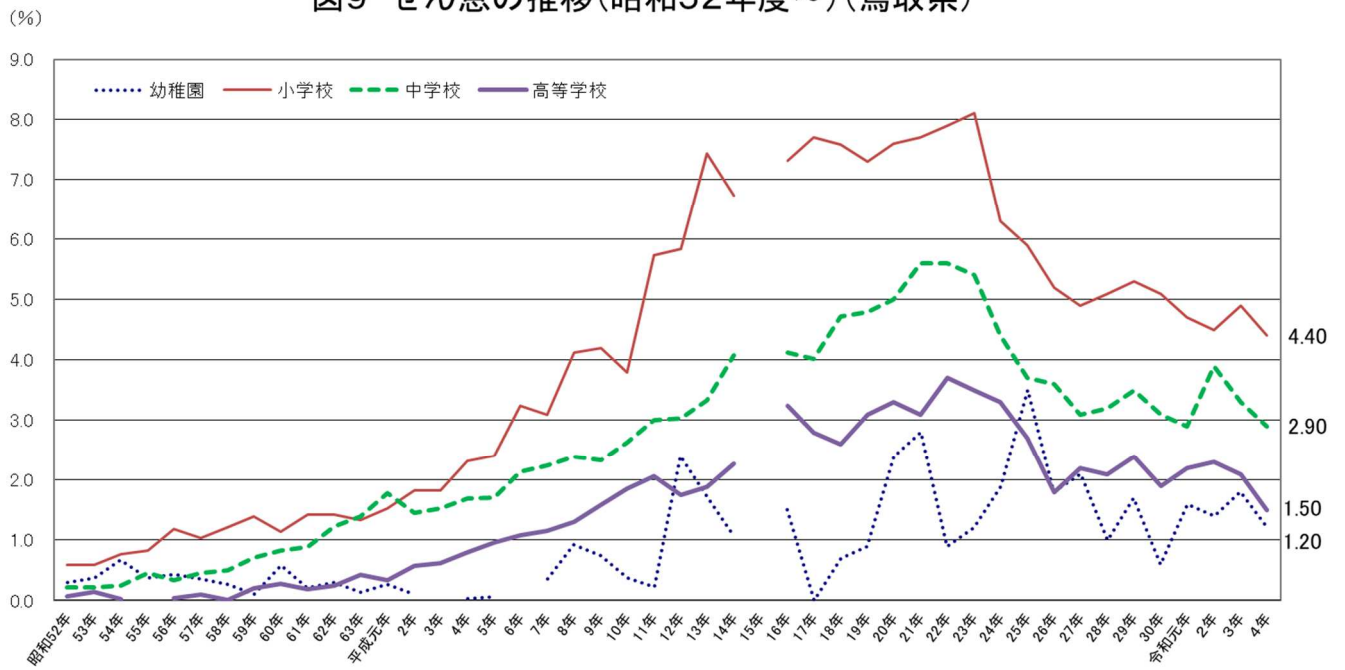


図9 ぜん息の推移(昭和52年度～)(鳥取県)



(注) グラフの欠落部分は、「…」処理のため連続しない。

3 相談員配置状況

相談員の定期配置が週4時間以上の割合は、全国と比べ中学校が20.8ポイント、高等学校が10.3ポイント上回った。

相談員の定期配置が週4時間以上の割合を前年度と比べると、小学校が3.4%で2.0ポイント下回り、中学校が45.5%で0.6ポイント、高等学校が17.2%で2.2ポイントそれぞれ上回った。

全国と比べると中学校が20.8ポイント、高等学校が10.3ポイント上回った。

(表4、図10-1~10-3 統計表 表13)

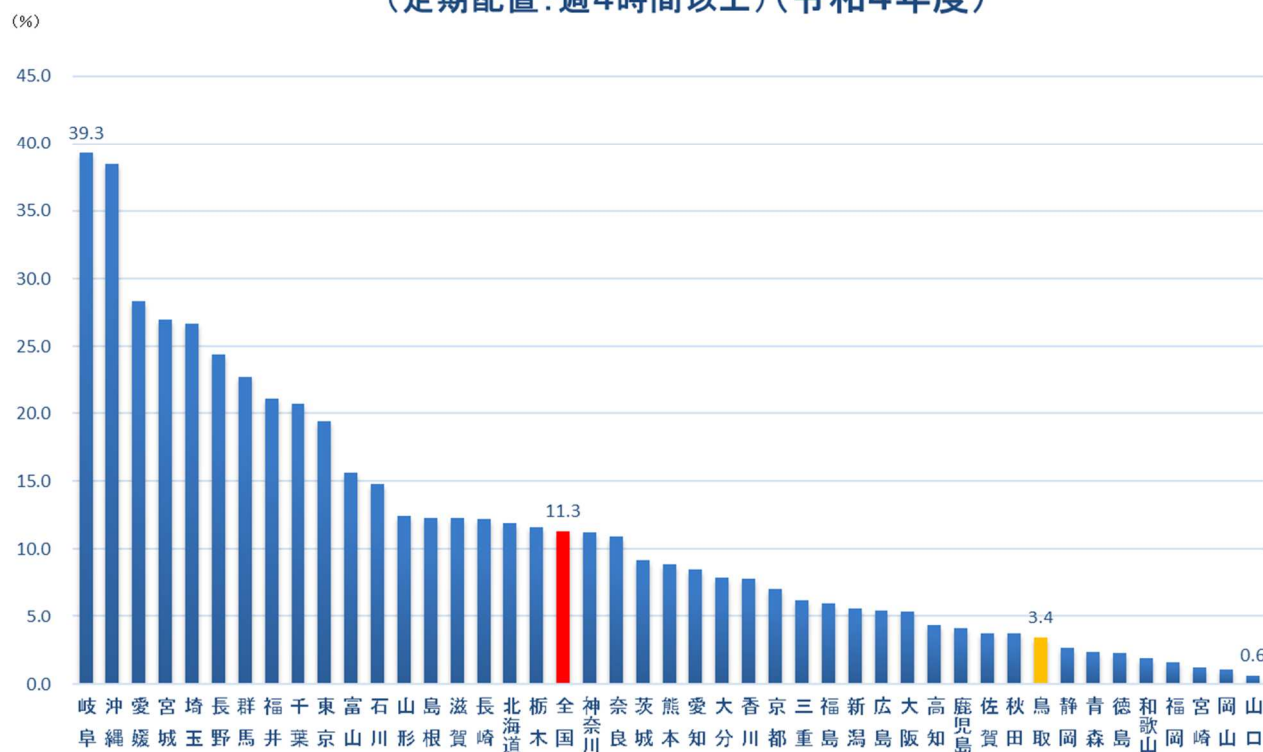
表4 相談員配置状況(令和4年度)(鳥取県及び全国)

(単位：%)

区分		有						無	
		定期配置				不定期配置			
		週4時間以上		週4時間未満					
小学校	鳥取	3.4	(5.4)	0.9	(3.1)	2.8	(4.8)	92.9	(86.7)
	全国	11.3	(12.2)	4.7	(5.1)	14.4	(13.4)	69.7	(69.2)
中学校	鳥取	45.5	(44.9)	-	(7.3)	4.4	(1.6)	50.1	(46.2)
	全国	24.7	(26.2)	2.8	(3.1)	7.2	(7.5)	65.3	(63.3)
高等学校	鳥取	17.2	(15.0)	-	(8.8)	3.1	(3.1)	79.7	(73.1)
	全国	6.9	(6.2)	1.7	(1.7)	5.5	(5.2)	86.0	(87.0)

※()内は前年度数値

図10-1 都道府県別小学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和4年度)



注)岩手県、山梨県、兵庫県については、数値なし

図10-2 都道府県別中学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和4年度)

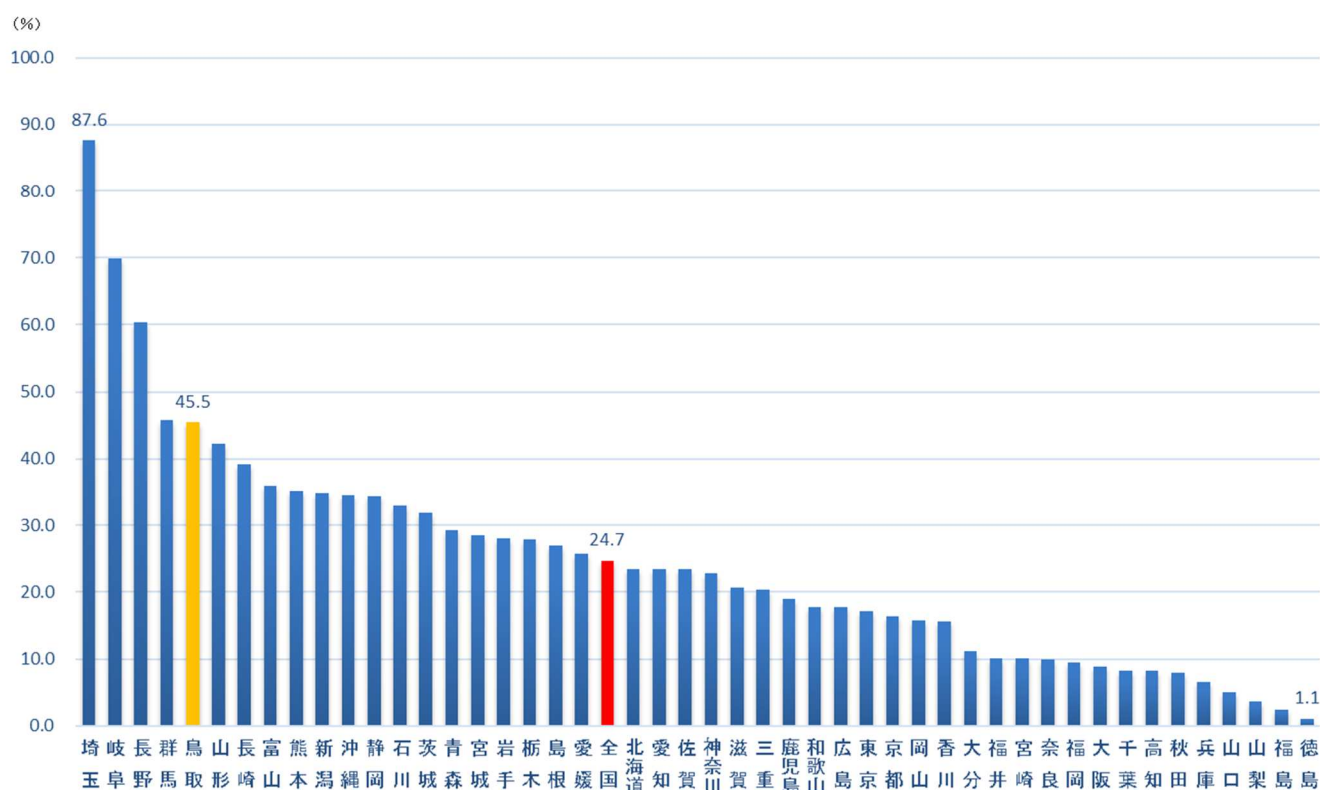
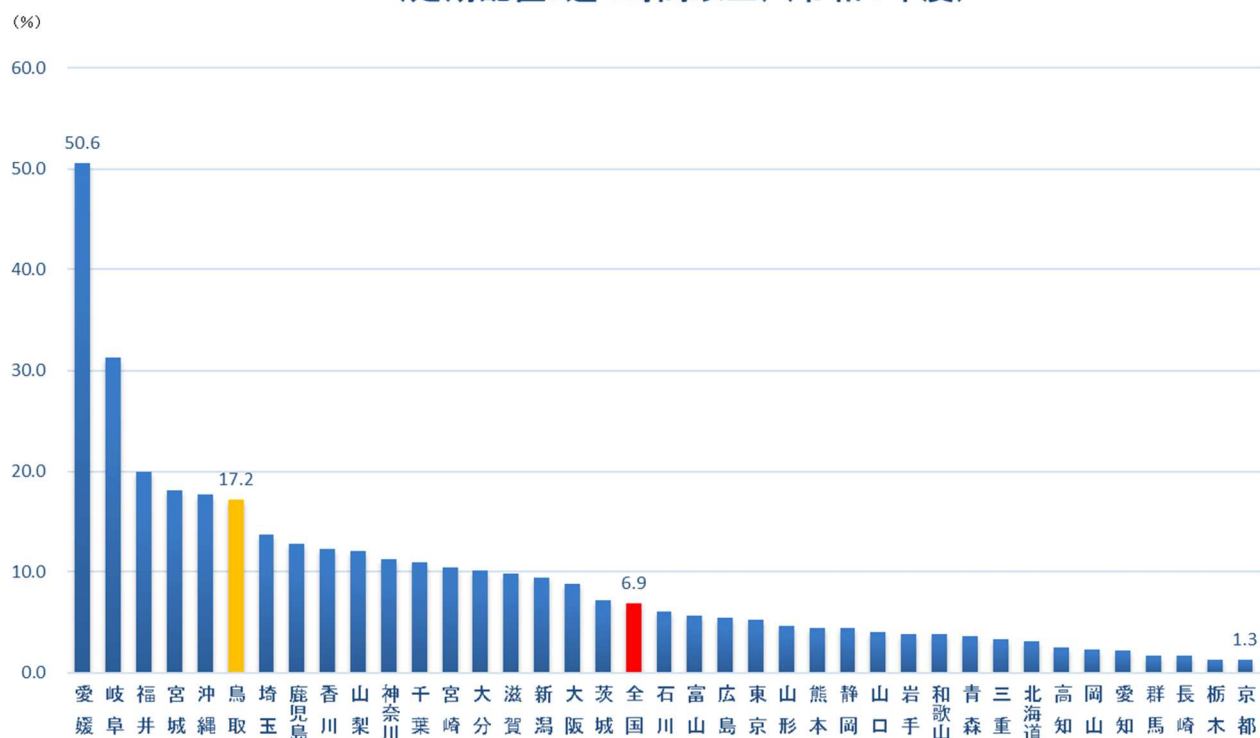


図10-3 都道府県別高等学校の相談員配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和4年度)



注) 秋田県、福島県、長野県、兵庫県、奈良県、島根県、徳島県、福岡県、佐賀県については、数値なし

4 スクールカウンセラー配置状況

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合は、全国と比べ高等学校で19.7ポイント上回った。

スクールカウンセラーの定期配置が週4時間以上の割合を前年度と比べると、小学校が8.2%で5.6ポイント、高等学校が60.9%で8.5ポイント下回り、中学校が52.6%で4.8ポイント上回った。全国と比べると高等学校が19.7ポイント上回った。

(表5、図11-1～11-3 統計表 表14)

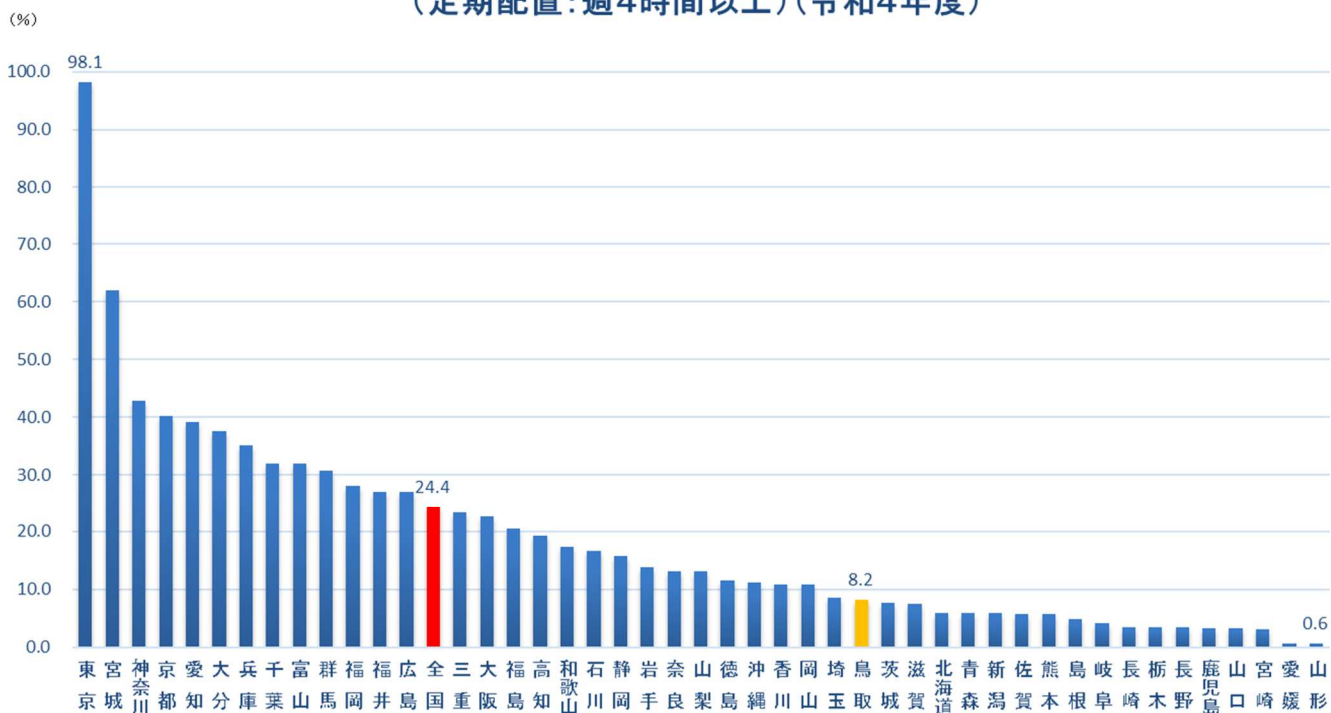
表5 スクールカウンセラー配置状況(令和4年度)(鳥取県及び全国)

(単位：%)

区 分		有				無
		定期配置		不定期配置		
		週4時間以上	週4時間未満			
小学校	鳥取	8.2 (13.8)	76.0 (60.6)	15.8 (25.7)	- (-)	
	全国	24.4 (23.7)	38.6 (35.3)	28.3 (31.4)	8.7 (9.5)	
中学校	鳥取	52.6 (47.8)	36.9 (33.1)	1.6 (19.1)	8.9 (-)	
	全国	64.5 (65.8)	21.5 (22.8)	11.6 (8.9)	2.4 (2.4)	
高等学校	鳥取	60.9 (69.4)	39.1 (27.5)	- (3.1)	- (-)	
	全国	41.2 (41.3)	34.8 (31.8)	17.8 (20.5)	6.2 (6.4)	

※()内は前年度数値

図11-1 都道府県別 小学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和4年度)



注) 秋田県については、数値なし

図11-2 都道府県別 中学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和4年度)

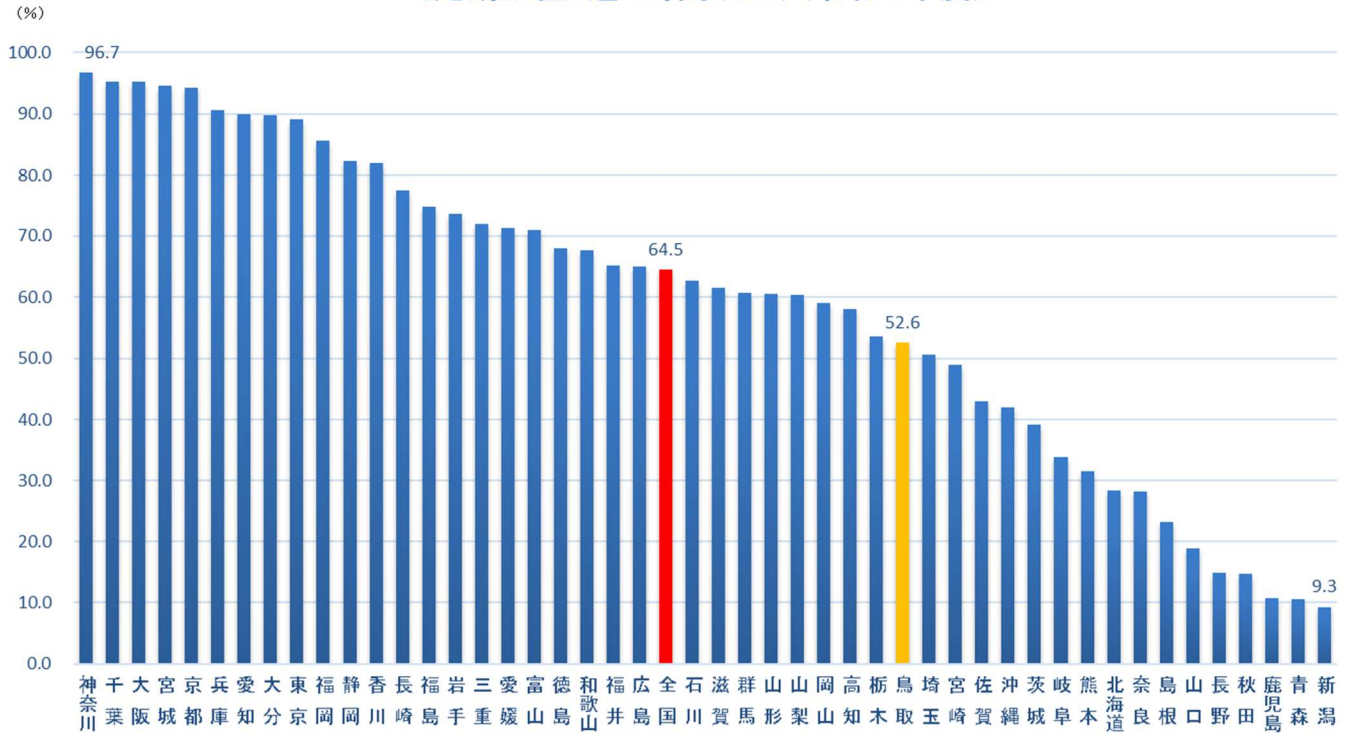


図11-3 都道府県別 高等学校のスクールカウンセリングの配置状況
(定期配置:週4時間以上)(令和4年度)

